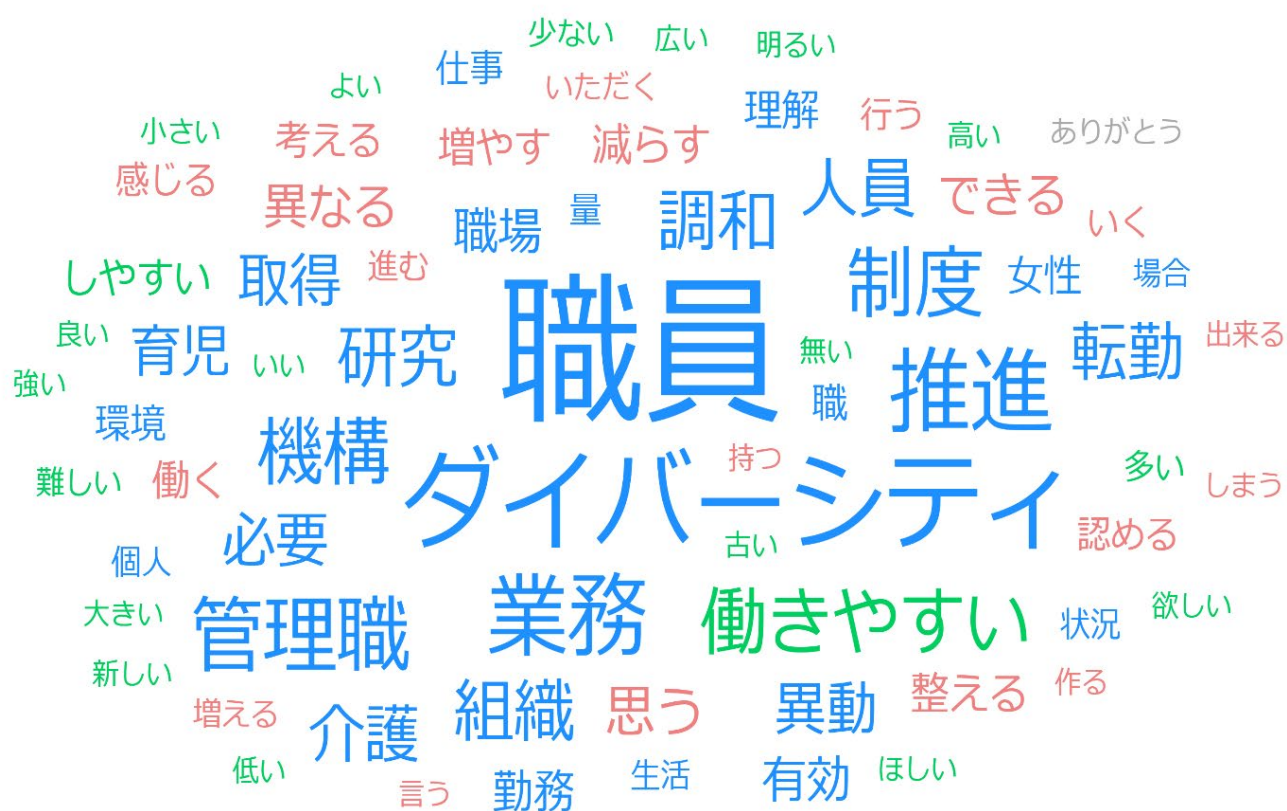


男女共同参画意識調査 2021 結果報告書



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 企画部 研究企画科
ダイバーシティ推進室

目 次

はじめに	2
ダイバーシティ推進本部アドバイザーからのコメント	3
方法	5
1. 対象者	5
2. 測定内容	5
結果	5
1. 回答者の属性の検討	5
1.1 回答者の性別、年齢区分、職種、所属	5
1.2 配偶者の有無	6
1.3 同居家族構成	6
1.4 末子の状態	7
1.5 要介護者の有無	7
2. 本設問の検討	8
2.1 仕事と生活の調和について	8
2.2 子育てについて	11
2.3 介護について	12
2.4 キャリアアップについて	12
2.5 多様な働き方（勤務形態）について	14
職種・男女別、年齢階層別集計結果	16
参考資料	
2022年男女共同参画週間展示パネル：2012年と2021年の男女共同参画意識調査結果の比較	47

はじめに

この調査は、平成 19 年度から現在に至る、森林研究・整備機構における男女共同参画推進の取組の効果を検証すること、および現時点での男女共同参画に関する要望の把握することを目的として、森林総合研究所ダイバーシティ推進室が主体となって、森林研究・整備機構の全役職員を対象として、2021 年 5 月から 6 月にかけて実施しました。ダイバーシティ推進室およびその前身の男女共同参画室では、これまでに関連する男女共同参画意識調査を 2009 年、2012 年、2016 年の 3 回実施しており、今回は 4 回目の調査となります。前回の調査との大きな変更点は、調査対象に研究所に加えて森林整備センターおよび森林保険センターの職員を含めたことと、2019 年以後に発生したコロナ禍に対応した在宅勤務やオンライン会議にかかわる設問を追加したこと、それにダイバーシティや働き方に関する用語についての知識を問う設問を追加したことなどです。

みなさんは、本報告書の表紙をご覧になって、何を感じたでしょうか。今回の意識調査でみなさんが書いてくださった自由記述に現れる単語の出現頻度を文字の大きさに表してみました。青は名詞、赤は動詞、緑色は形容詞、灰色は感動詞です。私が個人的に感じた印象になりますが、「働きやすい」が目を行っています。すでに「働きやすい」環境にあるのかもしれませんが、「働きやすい」環境を必要とされているのかもしれませんが、「働きやすい」が注目されていることは確かです。「育児」よりも「介護」のフォントサイズの方が大きいことに気づきました。介護に関して考えを巡らしている方々が多くいらっしゃるものの表れでしょう。当機構においては、育児へのサポートは充実しつつあると認識していますが、介護への理解やサポートはまだ道半ばであると感じます。今後ますます社会の高齢化が進む中で、力を入れて取り組むべき項目の一つであることは間違いありません。

さて、右上には、とても小さく控えめですが、灰色の感動詞に分類された「ありがとう」が表示されています。ダイバーシティ推進室長として皆さんのサポート業務を進めるうえで、この言葉が最大の原動力となっています。誰一人取り残されない職場環境作りを目指し、皆様に愛される本サポート部門でありつづけたいと思っております。

最後に、男女共同参画意識調査 2021 の報告書を作成するにあたり、メッセージを頂戴した当機構ダイバーシティ推進本部アドバイザーである埼玉大学ダイバーシティ推進センターの菅野摂子先生、本意識調査に携われた前ダイバーシティ推進室長の伊ヶ崎知弘氏、併任の小長谷啓介氏、加賀谷悦子氏、神原広平氏、工藤直樹氏、志賀薫氏、鈴木拓郎氏、千葉知人氏、研究専門員の田中良平氏、岡裕泰氏、非常勤職員の菅原久美子氏、古田直美氏には多大なご協力を賜りました。ここに記してお礼を申し上げます。

(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 企画部研究企画科ダイバーシティ推進室

永田 純子

ダイバーシティ推進本部アドバイザーからのコメント

1. 調査の実施と回収率について

まずは、継続的にこのような調査を実施しているダイバーシティ推進室の皆様に敬意を表したい。特に、回答率が83%というのは、組織内であってもかなり高い。どのように調査を周知し回収したのか、大変興味がある。Webによる回答と解答用紙での回答の割合はどうだったのだろう。属性（年齢層、性別、職種）ばかりでなく、回答傾向が違うのではないだろうか（言いたいことがある人はWebを志向する？など）。

また、要介護者の有無についての回答は興味深い。「要介護」は、介護保険による認定を受けているか、といった客観的条件ではなく、主観的な認知で答えているため、同じ親であっても息子と娘、息子と息子の配偶者、娘と娘の配偶者、など家族の間で、その親が要介護であるかの認識が異なる可能性がある。ただし、結果において明確な傾向は把握できない（例えば、女性の方が介護役割を担いやすいため「要介護」の認識が高いなど）。むしろ、女性で「いない」と回答している人が多いのは興味深い。

2. 仕事と家庭のバランス

仕事と家庭のバランスが取れていない、と感じているのは、一般職男性と研究職女性が比較的多い。バランスが取れていない、というのは、いかなる状況を指すのだろう。仕事が多すぎて家庭と関われる時間が少ない、もしくは仕事をしたいのに家庭の仕事が多すぎて満足できる仕事をするのが難しい、という2パターンがある。一般職男性と研究職女性がそのどちらのパターンなのかを知ることで、支援の在り方が違ってくのではないだろうか。バランスが悪い要因について尋ねているが、記述的な聞き方のほうがわかりやすかったかもしれない。例：もっと仕事がしたいのにできない、もっと家族と関わりたいのに家族との時間が取れない、など。

期待される支援制度は、在宅勤務、裁量労働、休暇・休業の3つである。制度はすでにあるため、実際に今ある制度のどこが改善されるべきなのか、細やかなヒアリングをもとにした改善が求められる。

3. 職務上の課題・職務の助けになること

一般職の仕事量の多さを改善する方法として、職員を増やすことも考えられるが、慣例化しているルーチンワークの中に非効率な作業が潜んでいる場合がある。すでに構造化された事務作業を変えるのは、労力も時間もかかるが、意外に効果があることもある。オンラインで済ませられる業務を増やすことで、業務全体が合理化されることもあるだろう。

指導者や上司、職場の雰囲気が職務の助けになる、と答えている人が多いのは、もっともである。職場の雰囲気を変えるのに、可能な範囲で、物理的な環境を変えることも検討の余地があるかもしれない。人間関係の調整には、カウンセラーなどの心理職が介入する場合もあるだろうが、そのこと自体に抵抗感を覚える人もいるため、メンバーの合意が必要である。

4. 子育て

思ったよりも男女の違いが出なかったが、興味深かったのは「配偶者が病気になった時の対応」である。男女の違いがはっきり出た。妻でなくてはわからない子どもおよび子どもに関わる事項を、できるだけ減らしていくことが肝要ではないだろうか。「妻の愚痴」には子どもにかかわる情報が多分に含まれるので、情報共有と思って聞いてみてはどうだろう。

5. 介護

介護はバリエーションの広い問題であり、今回の結果からかなり多様な状況が伺える。既存の制度を使うために、送迎の時間に合わせて職場の（勤務時間などの）融通や在宅勤務が必要な場合がある。各家庭の、また要介護者の事情に合う支援が必要なのはもちろんだが、要介護状態の変化に対応できるような事務手続きの簡素化や柔軟化が職場には求められる。

6. 管理職への意欲・女性管理職の増加

管理職になると研究や仕事の自由度が高くなるのか低くなるのか。研究職の場合には、事務的な作業や対外的な仕事が増えて、研究時間が割かれてしまうと考える人もいるのではないだろうか。大学であれば、教務を軽減するなど、管理職に対して何らかの職務の軽減があるが、研究所の場合にはそういった「管理職のメリット」が見えにくい。研究所の管理職のあり方について、検討が必要であろう。結果を見ると、一般職男性であっても、なりたくない、と思う人は30%を超えているため、収入以外のところで管理職になってよかった、と思える事務支援や勤務形態を考えたい。

7. 一般職・研究職のキャリア育成

一般職と研究職のそれぞれのキャリア育成について、当事者だけではなく、両方の職員が回答している。興味深いのは、能力の適切な評価と同じくらい、男性研究者の場合は、プロジェクトの形成、実施の経験への評価を望む人が多かったことである。外部資金を獲得する際、このあたりの評価が高いことが申請のモチベーションとなる可能性もあるだろう。検討を望みたい。

8. オンライン会議

技術的な課題に加え、Web用個室もしくはブースなどが挙げられており、こうした物理的な環境は比較的整備しやすいと思われる。大学では、このあたりをしっかりとやることで、授業における対面とオンラインの共存が可能となった。是非取り組んでいただきたい。

2023年2月8日

立教大学社会福祉研究所／埼玉大学ダイバーシティ推進センター

菅野 摂子

方法

1. 対象者

国立研究開発法人森林研究・整備機構の全職員1,484名に対して実施され、1,235名分のデータを回収した（回収率83%）。アンケートは、2021年5月17日から6月11日にかけて、Webサイト（e-ラーニング グレクサ）での直接入力、所内イントラネットおよび紙媒体による調査用紙の配布、専用回収ボックスによる回収によって実施された。

2. 調査内容

調査には、調査対象者の属性を確認するためのフェイスシート 13 問、本質問 60 問（内訳：1. 男女共同参画及びダイバーシティ推進について 24 問、2. 仕事と生活の調和について 9 問、3. 子育てについて 8 問、4. 介護について 5 問、5. キャリアアップについて 6 問、6. 多様な働き方（勤務形態）について 7 問、7. 自由記述 1 問）の合計 73 問を設けた。

結果

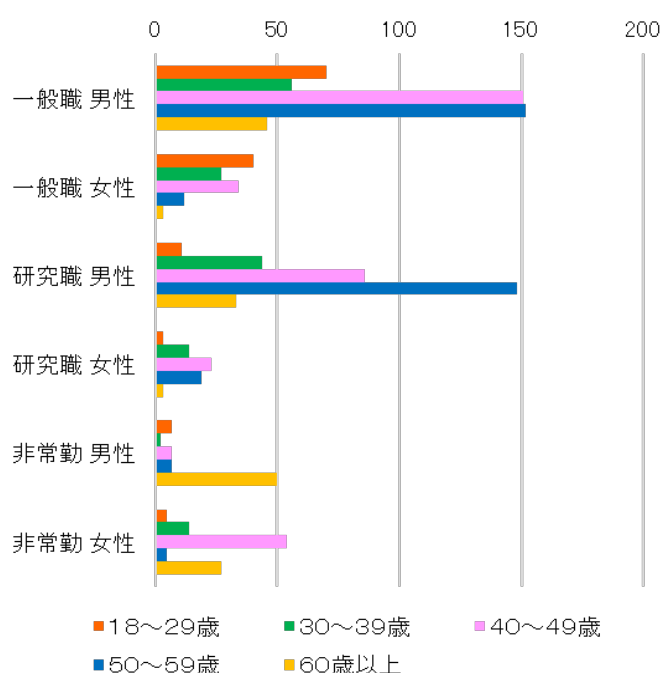
以下、集計結果を抜粋して示した。全集計結果は職種・男女別、年齢階層別集計結果に記載した。

1. 回答者の属性の検討

1.1 回答者の性別、年齢区分、職種、所属

研究職および一般職では 80%以上が男性、非常勤では 70%が女性で、非常勤男性の 72%は 60 歳以上であった。研究職は 50 歳以上が 53%で、研究職・一般職とも 50 歳以上では約 9 割が男性だが、若い年代ほど女性比率が高かった（図 1）。回答者所属について、研究所等は 54%、整備センタ

図 1. 職種・男女・年齢構成

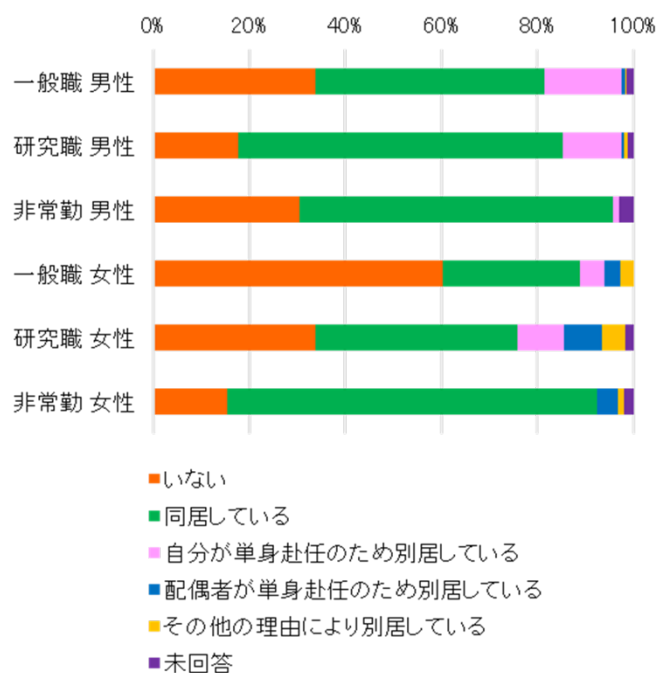


一等は 29%、育種センター等は 12%、保険センターは 3%であった（集計結果 F1、F2、F3-1、F4）。

1.2 配偶者の有無

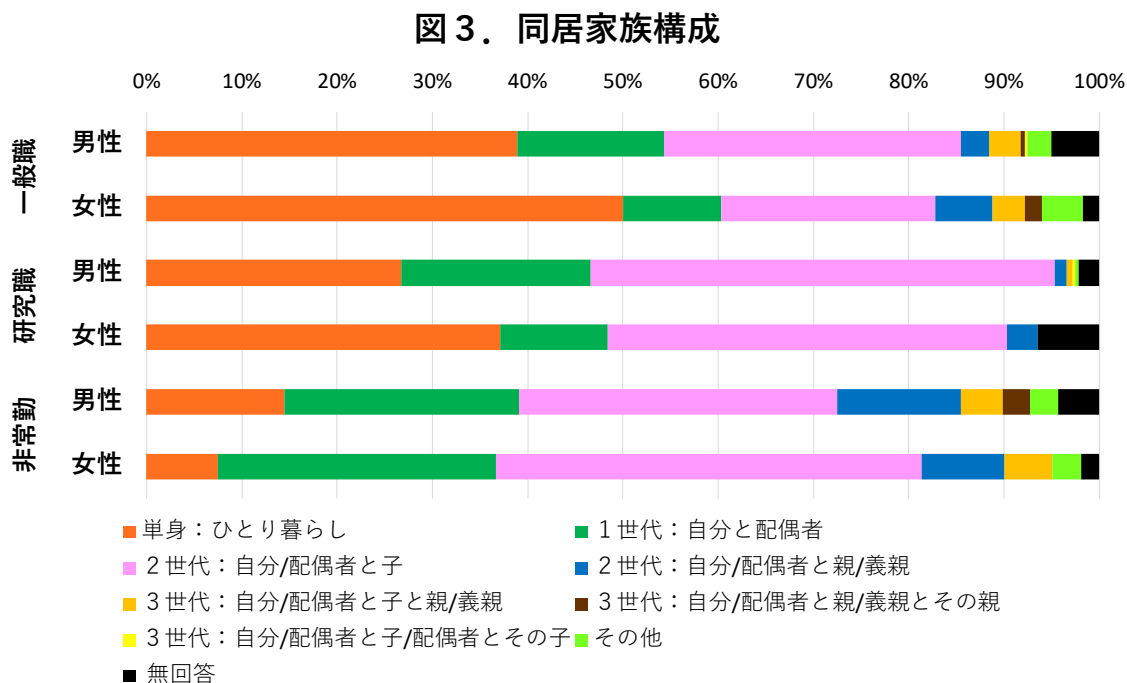
配偶者がいない職員の割合は、39 歳以下で 63%、40 歳以上で 18%だった。研究職女性では 34%、一般職女性では 60%に配偶者がいなかった（図 2）。配偶者がいる者のうち、19%が単身赴任等により別居していた（集計結果 F5-1）。

図 2. 配偶者について



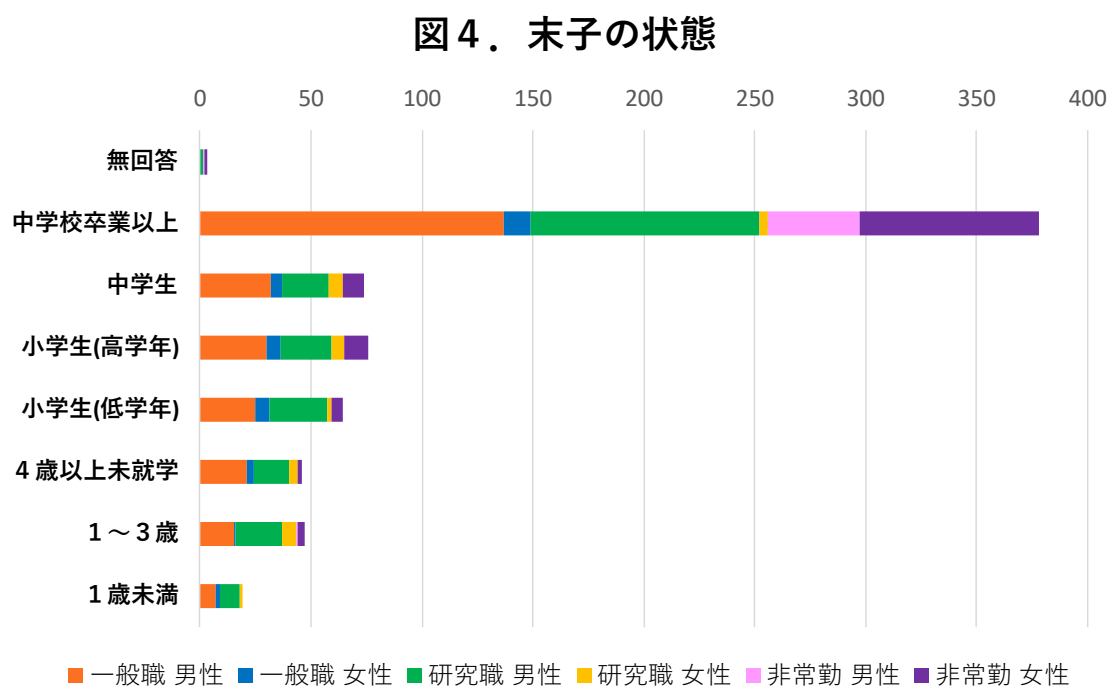
1.3 同居家族構成

単身世帯は 31%、自分と配偶者の世帯は 19%、自分（と配偶者）と子の世帯は 37%、3 世代その他・無回答は 13%であった（図 3、集計結果 F6）。



1.4 末子の状態

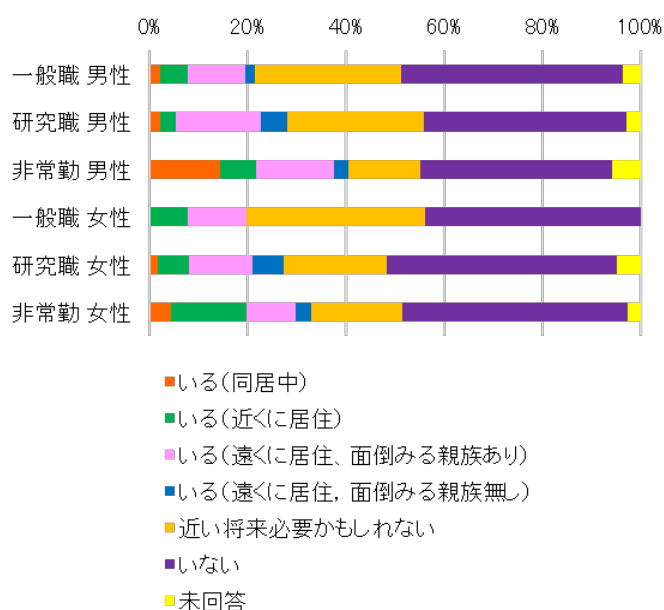
子供がいる職員のうち、末子が未就学は 16%、小学生は 20%、中学生以上は 64%であった（図 4、集計結果 F8-2）。



1.5 要介護者の有無

介護が必要な家族が同居している職員は3%、同居していない要介護者がいる者は23%、近い将来介護が必要になるかもしれない者は27%、いないと回答したものは44%であった。ただし、50歳以上の職員については、要介護者と同居している者は5%、同居していない要介護者がいる者は29%であった（図5、集計結果F10）。

図5. 要介護者



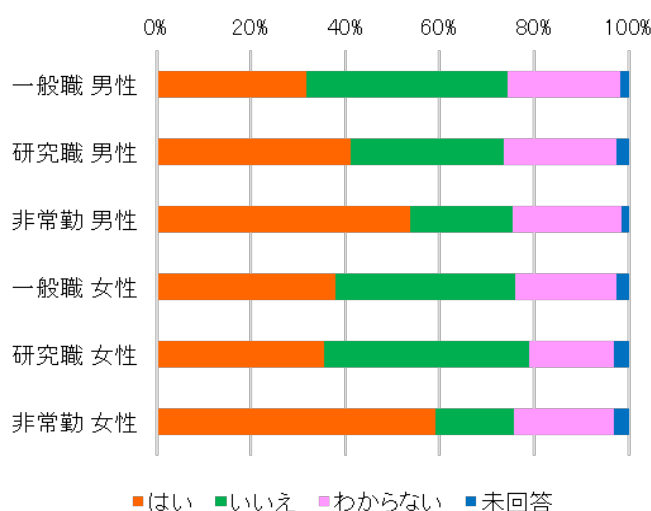
2. 本設問の検討

以下、集計結果を抜粋して示した。全集計結果は職種・男女別、年齢階層別集計結果に記載した。

2.1 仕事と生活の調和について

日常の「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味」のバランスがとれているか、という問いに

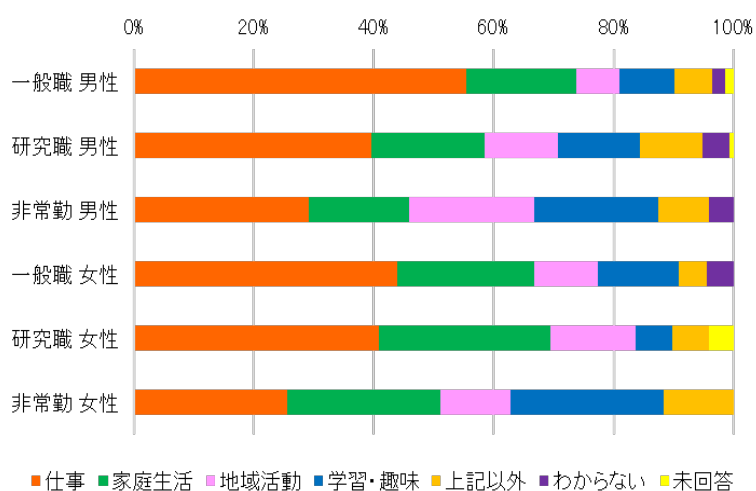
図6. バランスとれていますか？



対して、全体の 35%が「いいえ（バランスが取れていない）」と回答した。特に研究職女性、一般職男性で「いいえ」の割合が高い。役員、非常勤職員は「はい」の割合が高い（図 6、集計結果 2-1）。

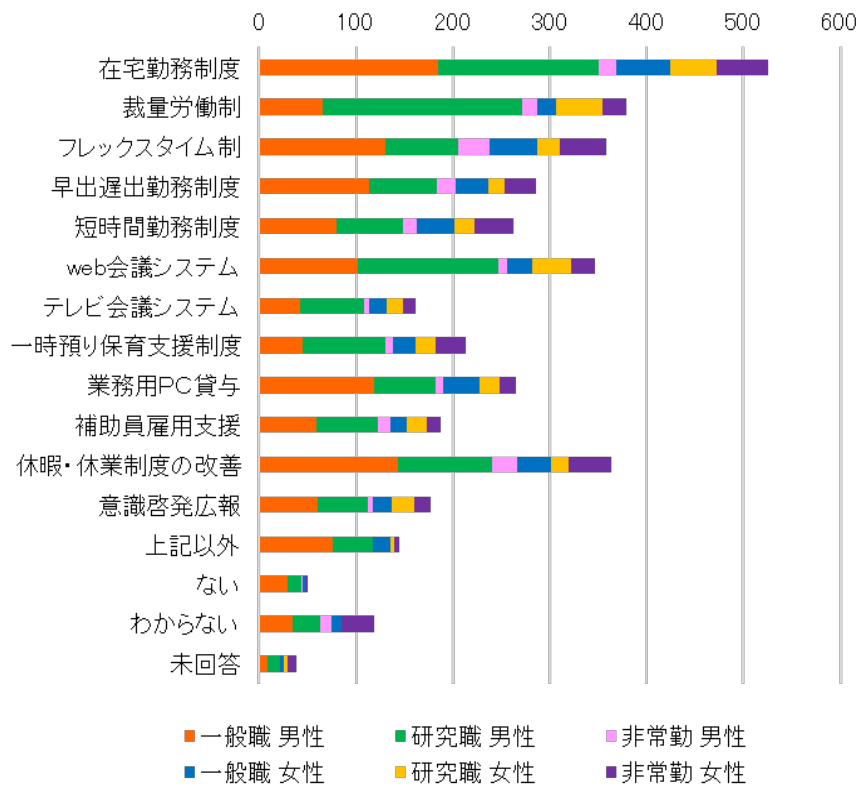
バランスがうまくとれていない要因について問うたところ、すべての職種・性別・年代で「仕事」が最も多く、職種では研究職女性および一般職男性、年代別では 10～40 代で「仕事」と回答した人の割合が高かった。また、「家庭生活」と回答した人の割合は、すべての職種で女性が男性を上回っており、年代別では 40 代以上で高かった（図 7、集計結果 2-3）。

図 7. バランスが悪い要因



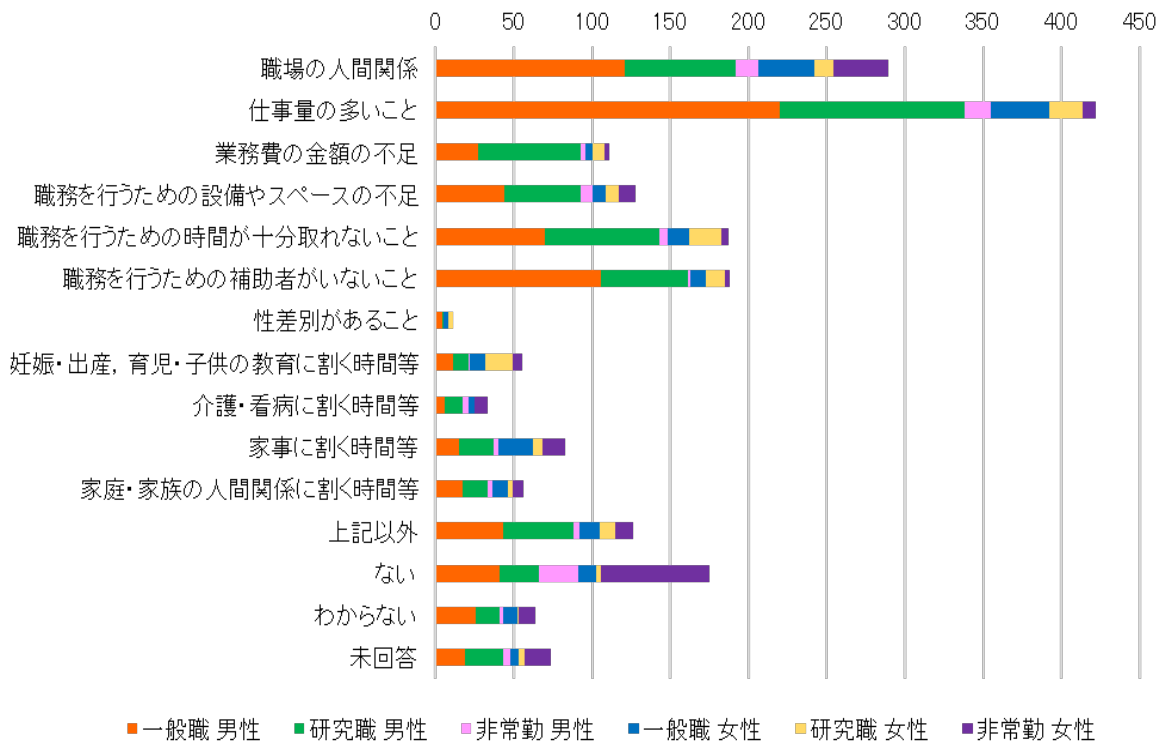
仕事と生活の調和を図るために効果的な支援や制度については、どの職種・性別でも「在宅勤務制度」を選択した人が多かった。研究職では「裁量労働制」「ウェブ会議システム」を選択した人が多かった。役員、一般職、非常勤では「フレックス制度」「休暇・休業制度の改善」を選択した人が多かった（図 8、集計結果 2-5）。

図 8. 効果に期待する支援制度



職務を行う上で課題となっているものは、「仕事量の多いこと」が最も多く、特に 30、40 代が多かった。「職場の人間関係」は全体の 2 割以上が選択しており、特に一般職が多かった。「職務を行うための

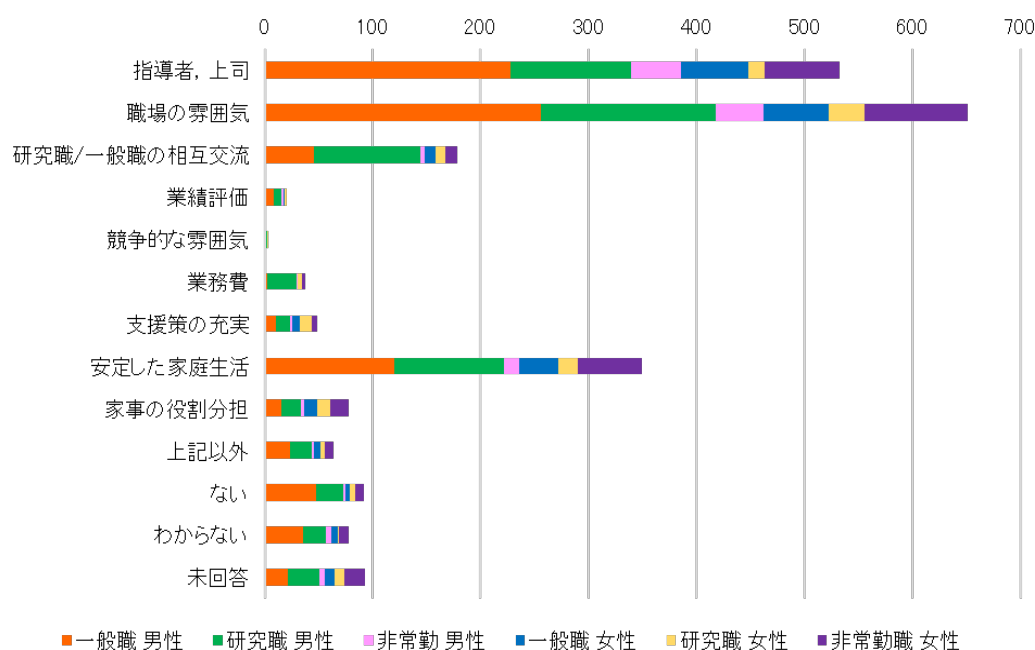
図 9. 職場における課題



時間が十分取れないこと」は研究職で多かった。「家事に割く時間等」「妊娠・出産、育児・子供の教育に割く時間等」は男性より女性の方が多かった（図9、集計結果2-6）。

職務を行う上での助けとなっているものは、ほぼすべての職種・性別・年齢で「職場の雰囲気」が最も多かった。次いで「指導者・上司」が多く選択されており、特に一般職、若年層で選択した人が多かった（図10、集計結果2-7）。

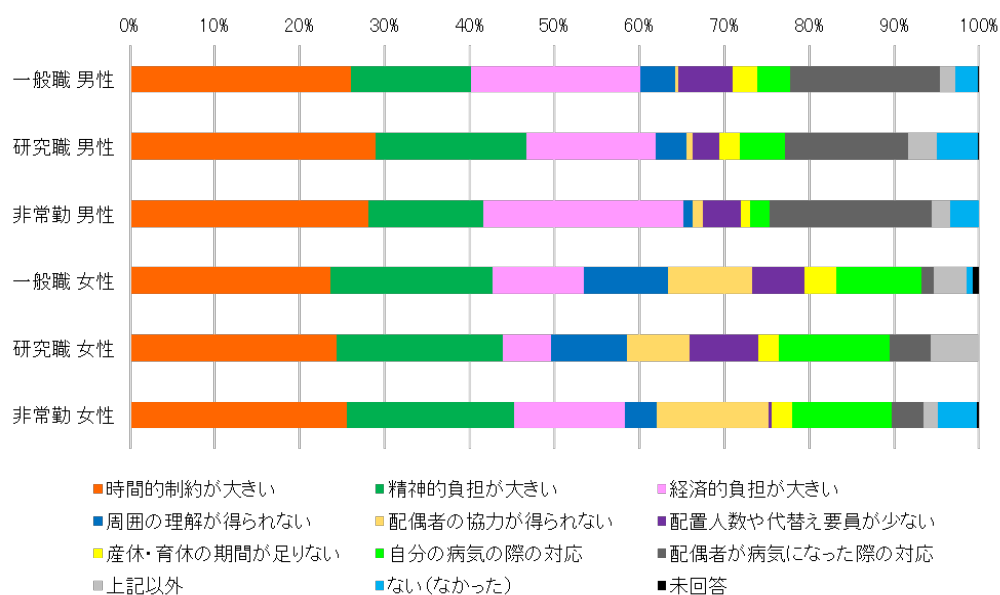
図10. 職務の助けになること



2.2 子育てについて

仕事と子育ての両立にどのような問題や困難があるか問うたところ、全体では時間的制約と精神的負

図11. 子育てにおける問題・困難

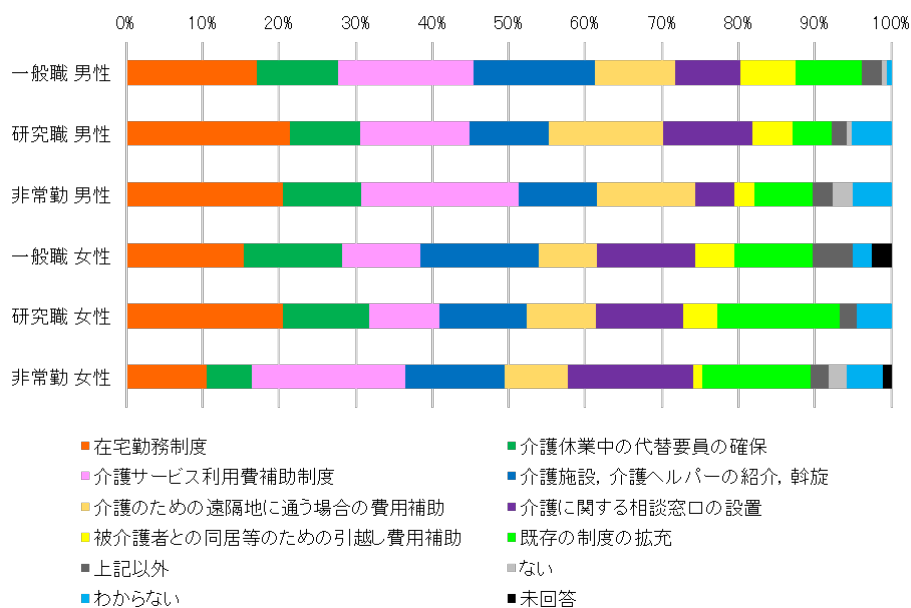


担が大きな問題や困難となっているが、一般職男性では経済的負担と配偶者の疾病に対して問題意識が高かった（図 11、集計結果 3-2）。

2.3 介護について

仕事と介護の両立のために効果的だと考えられる支援や制度は、多岐にわたっていたが、コロナ禍を反映して在宅勤務制度の充実を求める声が多かった（図 12、集計結果 4-3）。

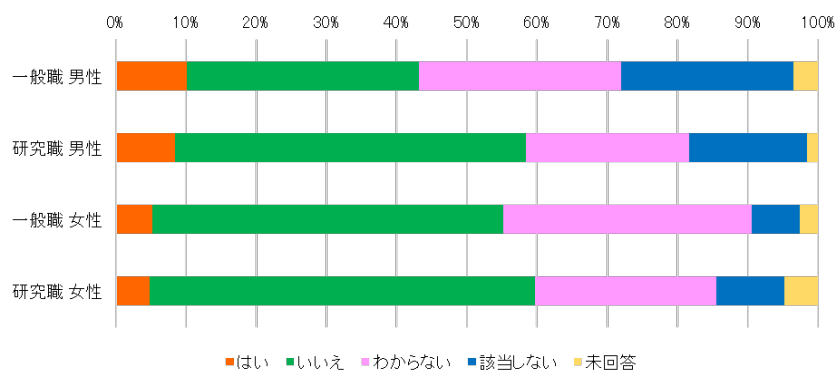
図 12. 介護で必要と思う支援制度



2.4 キャリアアップについて

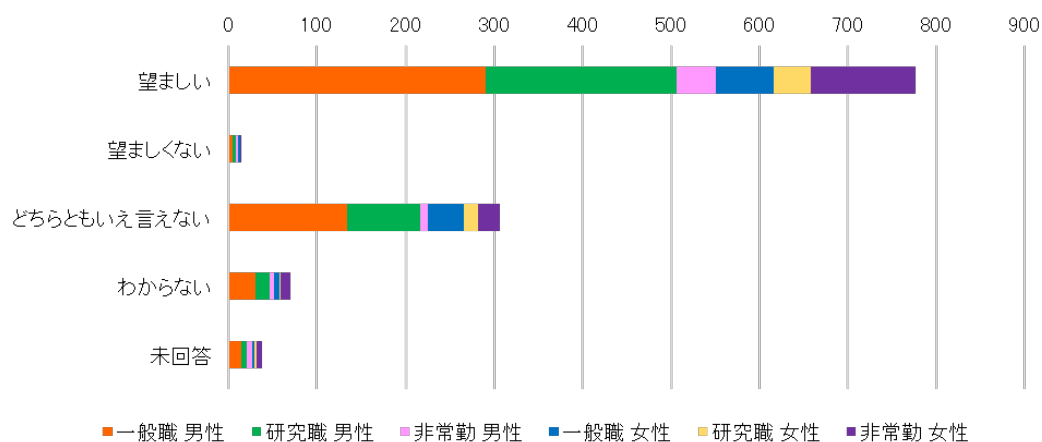
現在の職場で管理職になりたいかを問うたところ、「いいえ」の割合が多く、特に女性は顕著であった。若年層（18-29 歳）では中年層以降と比較して「はい」の割合が多かった（図 13、集計結果 5-1）。

図 13. 管理職になりたい？



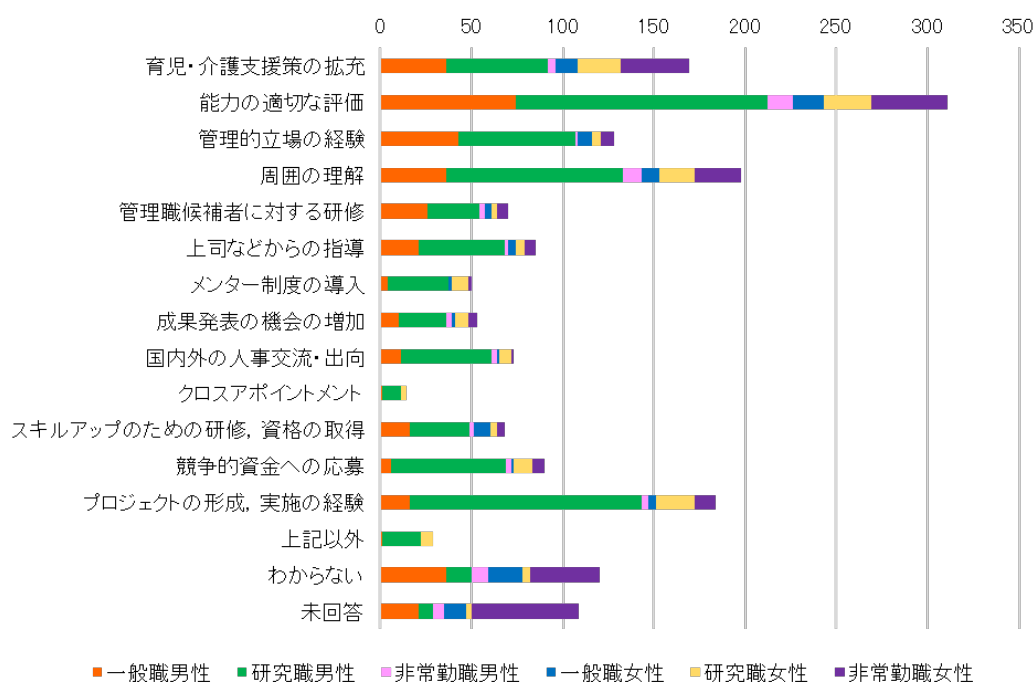
女性の管理職員が増加し活躍することについては、多数の人が「望ましい」と思っていた（図 14、集計結果 5-3）。

図 14. 女性管理職が増えることについて



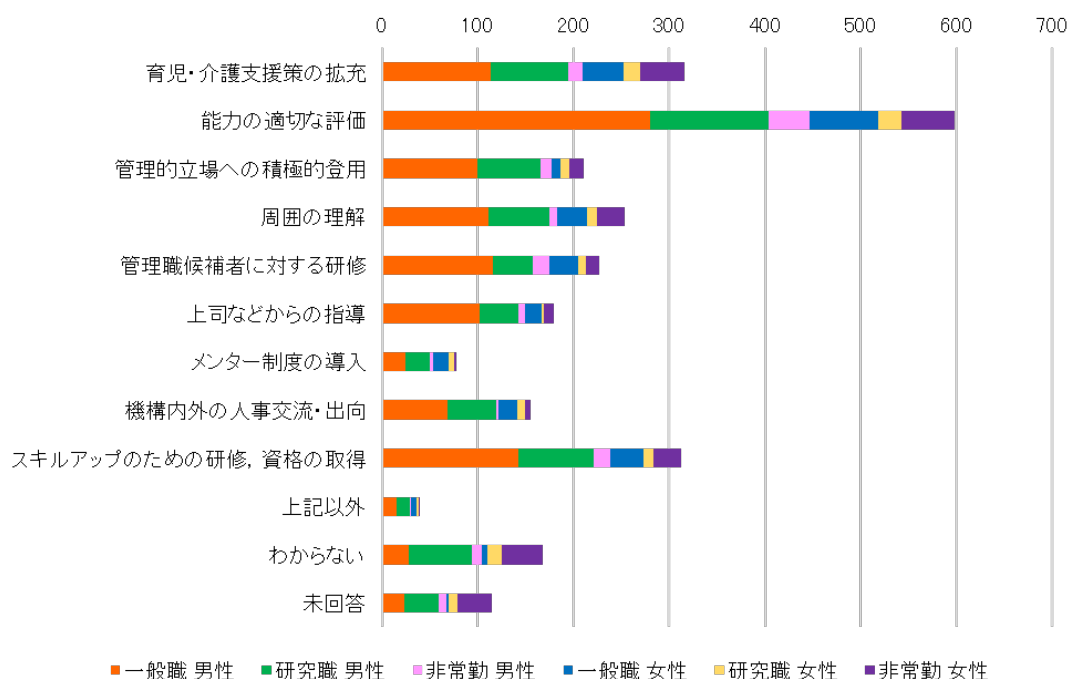
研究職員のキャリア育成（研究論文等の業績の蓄積、プロジェクトリーダー等の経験等）に必要な環境、機会については、「能力の適切な評価」が最も多く、一般職と同じ傾向だった。「プロジェクトの形成、実施の経験」も「能力の適切な評価」とほぼ同等に多かった（図 15、集計結果 5-4）。

図 15. 研究職のキャリア育成に必要と思うこと



一般職員のキャリア育成に必要な環境、機会については、「能力の適切な評価」という回答が圧倒的に多く研究職での傾向と同様だった（図 16、集計結果 5-5）。

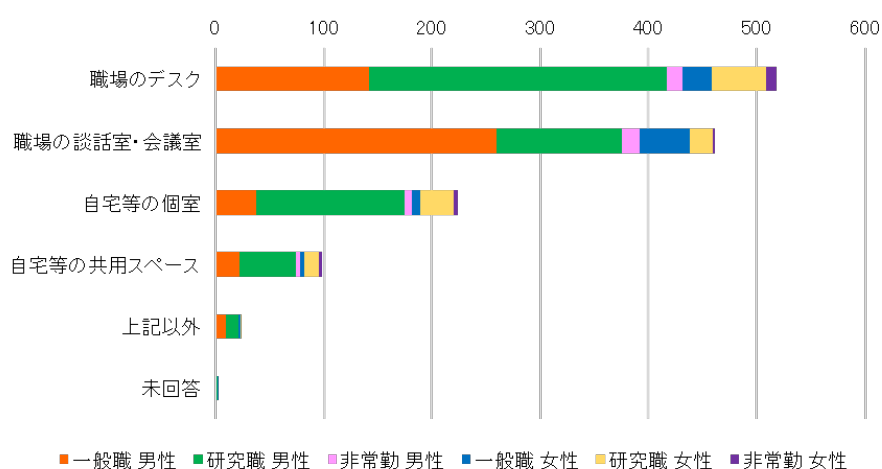
図 16. 一般職のキャリア育成に必要と思うこと



2.5 多様な働き方（勤務形態）について

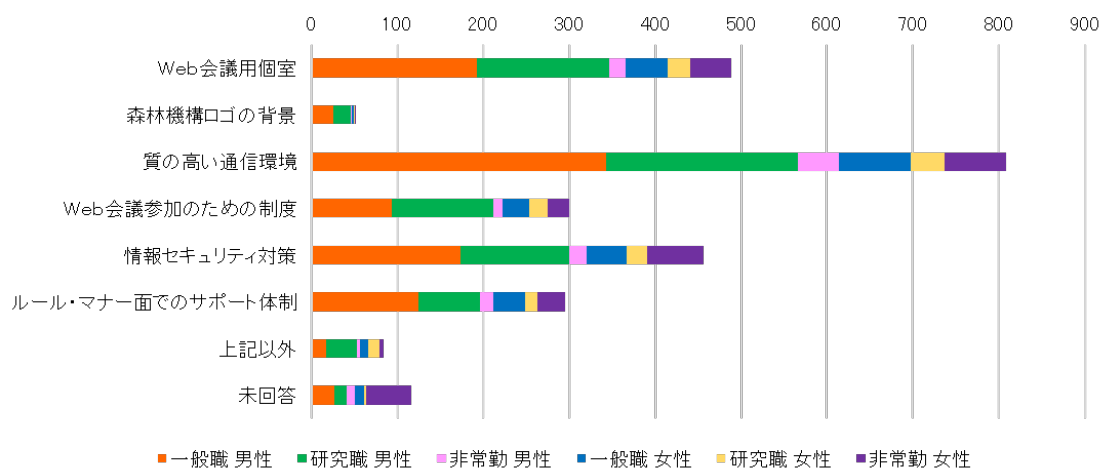
オンライン会議にどこから参加したかと問うたところ、研究職では「職場のデスク」、一般職では「職場の会議室」との回答が最多だった（図 17、集計結果 6-4）

図 17. オンライン会議で参加した場所



森林機構がオンライン会議にしっかりと対応できる組織となるためには何が必要だと考えるかとの問いにおいて、どのカテゴリーにおいても最も必要だと考えられていたのは「通信環境」だった。2 番目に必要だと考えられていたのは、常勤職員では「会議用個室」非常勤職員では「セキュリティ対策」だった（図 18、集計結果 6-6）。

図 18. オンライン会議で必要と思うもの



森林研究・整備機構 男女共同参画意識調査 2021
職種・男女別、年齢階層別集計結果

フェイスシート

回答者属性 F1 性別、F2 年齢区分、F3-1 職種、F4 所属

			18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	年齢無回答	計
全体			137	159	360	405	167	7	1235
研究所，支所，科学園，試験地			53	91	176	256	92	3	671
育種C，育種場，保存園，技術園			11	23	55	47	12	2	150
整備C，整備局，事務所			66	40	114	87	53	0	360
保険C			6	4	11	12	8	0	41
所属無回答			1	1	4	3	2	2	13
役員・指定職			1	0	0	6	4	0	11
研究職	男性	研究所，支所，科学園，試験地	10	40	70	137	32	1	290
		育種C，育種場，保存園，技術園	1	4	14	11	1	0	31
		所属無回答	0	0	2	0	0	0	2
		研究職男性計	11	44	86	148	33	1	323
	女性	研究所，支所，科学園，試験地	3	12	16	19	3	1	54
		育種C，育種場，保存園，技術園	0	2	7	0	0	0	9
		所属無回答	0	0	0	0	0	0	0
		研究職女性計	3	14	23	19	3	1	63
研究職計			14	58	109	167	36	2	386
一般職	男性	研究所，支所，科学園，試験地	15	18	23	41	19	0	116
		育種C，育種場，保存園，技術園	6	8	19	22	1	1	57
		整備C，整備局，事務所	46	26	103	77	26	0	278
		保険C	2	3	5	10	0	0	20
		所属無回答	1	1	1	2	0	0	5
		一般職男性計	70	56	151	152	46	1	476
	女性	研究所，支所，科学園，試験地	16	7	16	3	2	1	45
		育種C，育種場，保存園，技術園	3	5	5	0	0	0	13
		整備C，整備局，事務所	18	14	9	8	1	0	50
		保険C	3	1	4	1	0	0	9
		所属無回答	0	0	0	0	0	0	0
		一般職女性計	40	27	34	12	3	1	117
一般職計			110	83	185	164	49	2	593
非常勤	男性	研究所，支所，科学園，試験地	6	2	5	3	11	0	27
		育種C，育種場，保存園，技術園	1	0	1	0	4	0	6
		整備C，整備局，事務所	0	0	1	0	26	0	27
		保険C	0	0	0	0	8	0	8
		所属無回答	0	0	0	0	1	0	1
		非常勤男性計	7	2	7	3	50	0	69
	女性	研究所，支所，科学園，試験地	3	11	44	48	20	0	126
		育種C，育種場，保存園，技術園	0	3	9	13	6	0	31
		整備C，整備局，事務所	1	0	0	0	0	0	1
		保険C	1	0	1	0	0	0	2
		所属無回答	0	0	0	0	1	0	1
		非常勤女性計	5	14	54	61	27	0	161
非常勤計			12	16	61	64	77	0	230
職種無回答男性			0	1	2	0	1	0	4
職種無回答女性			0	1	0	0	0	1	2
性別その他			0	0	1	2	0	0	3
性別無回答			0	0	2	2	0	2	6

役員・指定職の18-29歳は誤回答

性別・年齢とも無回答の2名はすべて無回答

回答者のうち研究所等：54%、整備センター等：29%、育種センター等：12%、保険センター：3%。研究職・一般職は80%以上が男性、非常勤は70%が女性で、非常勤男性の72%は60歳以上。研究職は50歳以上が53%。研究職・一般職とも50歳以上では約9割が男性だが、若い年代ほど女性比率が高い。

F3-2 管理職ですか？

		18-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	年齢無回答	計
研究職男性	はい	0	0	5	49	1	0	55
	いいえ	11	44	81	96	32	1	265
	無回答	0	0	0	3	0	0	3
研究職女性	はい	0	0	0	3	0	0	3
	いいえ	3	14	22	15	3	1	58
	無回答	0	0	1	1	0	0	2
一般職男性	はい	0	0	38	91	1	1	131
	いいえ	70	55	111	60	45	0	341
	無回答	0	1	2	1	0	0	4
一般職女性	はい	0	0	2	5	0	0	7
	いいえ	39	26	32	7	3	1	108
	無回答	1	1	0	0	0	0	2
職種無回答女性	いいえ	0	0	0	0	0	1	1
全体	はい	0	0	45	148	2	1	196
	いいえ	123	139	246	178	83	3	772
	無回答	1	2	3	5	0	0	11
合計		124	141	294	331	85	5	980

管理職は研究職・一般職の回答者の20%。管理職のうち女性は5%。50-59歳で管理職なのは男性で47%、女性で26%。

F5-1 現在、配偶者（事実婚のパートナーを含む）はいますか？

		自分が単身赴任 いない	配偶者が単身赴任 同居している	その他の理由に のため別居して いる	のため別居してい る	より別居してい る	無回答	計
役員		2	8	1	0	0	0	11
研究職	男性	57	218	39	2	2	4	322
	女性	21	26	6	5	3	1	62
一般職	男性	160	227	77	3	1	7	475
	女性	70	33	6	4	3	0	116
非常勤	男性	21	45	1	0	0	2	69
	女性	25	124	0	7	2	3	161
18-29歳		120	14	2	0	0	1	137
30-39歳		66	75	7	2	4	3	157
40-49歳		83	217	41	7	4	3	355
50-59歳		65	243	72	11	3	7	401
60歳以上		22	132	8	1	0	3	166
年齢無回答		1	2	0	0	0	4	7
計		357	683	130	21	11	21	1223

配偶者がいないのは39歳以下の63%、40歳以上の18%。研究職女性の34%、一般職女性の60%。配偶者がいる者のうち、単身赴任等により別居しているのは19%。

F5-2 配偶者がいる方にお尋ねします。配偶者は仕事をお持ちですか？

		あり	なし	無回答	計
役員		6	3	0	9
研究職	男性	160	96	9	265
	女性	36	1	4	41
一般職	男性	161	145	9	315
	女性	45	1	0	46
非常勤	男性	22	24	2	48
	女性	131	1	4	136
計		561	271	28	860

男性職員の配偶者は仕事ありが56%、女性職員の配偶者は仕事ありが95%。

F6 同居の家族構成についてお答えください。

		単身世帯 (ひとり暮らし)	1 世代世帯 (自分と配偶者)	2 世代世帯 (自分と配偶者と子)	2 世代世帯 (自分と配偶者と親(または義親))	3 世代世帯 (自分と配偶者と子と親(または義親))	3 世代世帯 (自分と配偶者と親(または義親)とその親)	3 世代世帯 (自分と配偶者と子(とその配偶者)とその子(孫))	その他	無回答	計
役員		3	2	6	0	0	0	0	0	0	11
研究職	男性	86	64	157	4	2	0	1	1	7	322
	女性	23	7	26	2	0	0	0	0	4	62
一般職	男性	185	73	148	14	16	2	1	12	24	475
	女性	58	12	26	7	4	2	0	5	2	116
非常勤	男性	10	17	23	9	3	2	0	2	3	69
	女性	12	47	72	14	8	0	0	5	3	161
男女職種別計		377	222	458	50	33	6	2	25	43	1216
18-29歳		102	9	5	8	0	3	0	6	4	137
30-39歳		65	22	58	3	0	0	0	2	7	157
40-49歳		89	49	179	8	11	2	0	6	11	355
50-59歳		105	85	159	18	15	1	1	7	15	406
60歳以上		18	63	57	13	7	0	1	4	6	169
年代別計		379	228	458	50	33	6	2	25	43	1224

単身世帯：31%、自分と配偶者：19%、自分（と配偶者）と子：37%、3世代その他・無回答：13%。

F7 F5-1 で「3：自分が単身赴任のため別居している」と答えた方は自宅での家族構成をお答えください。

	1 世代世帯（配偶者）	2 世代世帯（配偶者と子）	2 世代世帯（配偶者と親（または義親））	3 世代世帯（配偶者と子と親（または義親））	3 世代世帯（配偶者と子（とその配偶者）と孫）	その他	無回答	計
役員	1	0	0	0	0	0	0	1
研究職								
男性	11	25	1	0	0	0	2	39
女性	1	3	1	1	0	0	0	6
一般職								
男性	10	60	1	2	2	1	1	77
女性	5	1	0	0	0	0	0	6
非常勤								
男性	0	1	0	0	0	0	0	1
女性	0	0	0	0	0	0	0	0
男女職種別計	28	90	3	3	2	1	3	130
18-29歳	2	0	0	0	0	0	0	2
30-39歳	3	4	0	0	0	0	0	7
40-49歳	4	32	2	2	0	0	1	41
50-59歳	16	51	0	1	1	1	2	72
60歳以上	3	3	1	0	1	0	0	8
年代別計	28	90	3	3	2	1	3	130

配偶者と子が 69%、配偶者のみが 22%。その他・無回答が 9%。

F8-1 子は何人ですか？

	0 人	1 人	2 人	3 人	4 人以上	無回答	計
役員	0	3	7	1	0	0	11
研究職							
男性	88	68	111	34	7	14	322
女性	26	11	14	4	0	7	62
一般職							
男性	176	82	129	50	6	32	475
女性	69	10	16	8	1	12	116
非常勤							
男性	20	10	23	7	3	6	69
女性	39	25	58	27	3	9	161
男女職種別計	418	209	358	131	20	80	1216
18-29歳	111	5	0	0	0	20	136
30-39歳	82	34	20	5	1	15	157
40-49歳	102	59	131	41	0	22	355
50-59歳	96	83	138	63	12	15	407
60歳以上	28	33	70	22	7	8	168
年代別計	419	214	359	131	20	80	1223

最も子供が少ないのが一般職女性で、0 人が 59%、1 人以上が 30%、無回答が 10%。

最も子供が多いのが非常勤の女性で、0 人が 24%、1 人以上が 70%、無回答が 6%。

研究職の女性はその中間で、0 人が 42%、1 人以上が 47%、無回答が 11%。

F8-2: 子がいる方にお聞きます。1番下の子の現状は？

		1歳未満	1～3歳	4歳以上 未就学	小学生(低 学年)	小学生(高 学年)	中学生	中学校卒 業以上	無回答	計
役員		0	0	0	0	0	0	8	0	8
研究職	男性	9	21	16	26	23	21	103	1	220
	女性	1	6	4	2	6	6	4	0	29
一般職	男性	7	15	21	25	30	32	137	0	267
	女性	2	1	3	6	6	5	12	0	35
非常勤	男性	0	1	0	0	0	0	41	1	43
	女性	0	3	2	5	11	10	81	1	113
男女職種別計		19	47	46	64	76	74	386	3	715
18-29歳		4	1	0	0	0	0	0	0	5
30-39歳		12	22	12	6	6	1	1	0	60
40-49歳		3	22	32	49	45	31	48	1	231
50-59歳		0	2	2	9	25	42	209	1	290
60歳以上		0	0	0	0	0	0	128	1	129
年代別計		19	47	46	64	76	74	386	3	715

未就学：16%、小学生：20%、中学生以上：64%

F9: 同居・別居問わず親及び義親の年齢で最高齢の人は？

		60歳未満	60～74歳	75歳以上	不在	無回答	計
役員		0	0	10	1	0	11
研究職	男性	12	64	221	13	12	322
	女性	1	20	30	7	4	62
一般職	男性	40	115	283	19	18	475
	女性	16	43	47	6	4	116
非常勤	男性	6	4	45	10	4	69
	女性	5	21	115	15	5	161
男女職種別計		80	267	751	71	47	1216
18-29歳		55	52	18	2	10	137
30-39歳		5	110	25	4	13	157
40-49歳		12	98	234	2	9	355
50-59歳		7	6	351	26	11	401
60歳以上		1	1	123	37	4	166
年代別計		80	267	751	71	47	1216

60歳未満：6%、60～74歳：22%、75歳以上：62%、不在：6%、無回答：4%。

F10: 同居・別居問わず介護の必要のある家族がいますか？

		いる（同居 している）	いる（すぐ に行ける場 所に住んで いる）	いる（すぐ に行ける場 所に住んで ないが、近 くに面倒を みる親族が いる）	いる（すぐ に行ける場 所に住んで なく、近く に面倒をみ る親族がい ない）	近い将来必 要かもしれ ない	いない	無回答	計
役員		0	0	4	1	2	4	0	11
研究職	男性	7	10	56	17	90	133	9	322
	女性	1	4	8	4	13	29	3	62
一般職	男性	10	27	56	9	141	215	17	475
	女性	0	9	14	0	42	51	0	116
非常勤	男性	10	5	11	2	10	27	4	69
	女性	7	25	16	5	30	74	4	161
男女職種別計		35	80	165	38	328	533	37	1216
18-29歳		1	4	20	0	28	78	6	137
30-39歳		1	3	22	3	32	85	11	157
40-49歳		5	20	40	7	117	157	9	355
50-59歳		12	35	58	21	122	146	7	401
60歳以上		16	18	25	7	29	67	4	166
年代別計		35	80	165	38	328	533	37	1216

同居している：3%、いる（非同居）：23%、近い将来必要かもしれない：27%、いない：44%。

ただし、50歳以上では、同居している：5%、いる（非同居）29%。

本設問

1. 男女共同参画及びダイバーシティ推進について

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	6	5	0	0	11
研究職	男性	155	136	23	8	322
	女性	31	26	3	2	62
一般職	男性	198	228	41	8	475
	女性	48	52	12	4	116
非常勤	男性	22	32	13	2	69
	女性	39	97	23	2	161
	計	499	576	115	26	1216

ほぼ10年前の宣言だが、「知っている」が41%。「聞いたことはある」が47%で、多くの人に知られている。

1.2 ダイバーシティ推進に関する下記のA-Tの単語を知っていますか？知っている度合いを1－3から選んでください。

A) ワークライフバランス

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	9	1	1	0	11
研究職	男性	290	22	5	5	322
	女性	56	4	0	2	62
一般職	男性	400	57	10	8	475
	女性	106	6	0	4	116
非常勤	男性	40	18	10	1	69
	女性	97	45	17	2	161
	計	998	153	43	22	1216

「知っている」のが全体の82%で、研究職女性、一般職女性では知らないが0%。

B) ロールモデル

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	5	4	2	0	11
研究職	男性	179	93	45	5	322
	女性	54	6	0	2	62
一般職	男性	100	173	192	10	475
	女性	50	34	27	5	116
非常勤	男性	15	25	28	1	69
	女性	38	57	61	5	161
	計	441	392	355	28	1216

必要と思う人には切実な「ロールモデル」だが、知っているのは36%で、知らない人も多い。

C)メンター

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	6	2	3	0	11
研究職	男性	251	53	11	7	322
	女性	57	3	0	2	62
一般職	男性	37	38	37	4	116
	女性	135	139	191	10	475
非常勤	男性	22	14	32	1	69
	女性	32	43	82	4	161
	計	540	292	356	28	1216

男女ともに先を行って導いてくれるメンターは必要だが、この言葉を知っているのは全体で44%、女性研究職では92%と職種、性別間での差が大きい。

D)ダイバーシティ

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	8	1	1	1	11
研究職	男性	283	20	4	15	322
	女性	55	3	0	4	62
一般職	男性	321	127	11	16	475
	女性	85	22	2	7	116
非常勤	男性	38	20	10	1	69
	女性	88	59	9	5	161
	計	878	252	37	49	1216

知っているのが全体で72%、研究職では88%で、広く認知されている。

E)インクルージョン

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	3	2	5	1	11
研究職	男性	69	103	132	18	322
	女性	19	18	22	3	62
一般職	男性	36	121	301	17	475
	女性	17	34	57	8	116
非常勤	男性	7	16	44	2	69
	女性	23	52	81	5	161
	計	174	346	642	54	1216

知っているのが全体の14%で、まだまだ知らない職員が多い。

F) 女性活躍推進法

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		5	5	0	1	11
研究職	男性	138	123	38	23	322
	女性	31	24	4	3	62
一般職	男性	226	174	56	19	475
	女性	50	47	10	9	116
非常勤	男性	29	30	9	1	69
	女性	56	71	29	5	161
計		535	474	146	61	1216

全体で知っているのが44%、聞いたことはあるのが39%で、男女差は少ない。

G) グローバル化

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		9	0	1	1	11
研究職	男性	259	32	9	22	322
	女性	53	5	0	4	62
一般職	男性	365	82	7	21	475
	女性	99	9	0	8	116
非常勤	男性	45	16	6	2	69
	女性	112	39	4	6	161
計		942	183	27	64	1216

知っているのが全体で77%、研究職では82%で男女問わずよく知られている。

H) LGBT

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		7	1	2	1	11
研究職	男性	258	32	9	23	322
	女性	54	3	1	4	62
一般職	男性	344	77	31	23	475
	女性	96	7	4	9	116
非常勤	男性	44	13	10	2	69
	女性	121	16	18	6	161
計		924	149	75	68	1216

知っているのが全体で76%、研究職では82%で男女問わずよく知られている。

I) ワーケーション

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		8	1	1	1	11
研究職	男性	178	78	40	26	322
	女性	40	13	5	4	62
一般職	男性	173	154	125	23	475
	女性	48	34	25	9	116
非常勤	男性	27	25	15	2	69
	女性	70	48	35	8	161
計		544	353	246	73	1216

全体で「知っている」45%、「聞いたことはある」29%、「知らない」20%。回答の男女差は小さい。

J) テレワーク（リモートワーク）

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		10	0	0	1	11
研究職	男性	284	9	1	28	322
	女性	56	1	0	5	62
一般職	男性	428	21	2	24	475
	女性	107	0	0	9	116
非常勤	男性	63	3	2	1	69
	女性	154	0	0	7	161
計		1102	34	5	75	1216

91%が「知っている」。「知らない（聞いたことがない）」のは0.4%とよく知られていた言葉。

K) 男性育休

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		9	1	0	1	11
研究職	男性	280	11	4	27	322
	女性	56	2	0	4	62
一般職	男性	419	23	6	27	475
	女性	103	1	2	10	116
非常勤	男性	62	3	2	2	69
	女性	150	4	0	7	161
計		1079	45	14	78	1216

知っているのが89%で、男女ともに、よく認知されている。

L) キャリア

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	7	3	0	1	11
研究職	男性	270	21	4	27	322
	女性	56	2	0	4	62
一般職	男性	382	59	9	25	475
	女性	101	5	1	9	116
非常勤	男性	54	10	4	1	69
	女性	141	9	4	7	161
	計	1011	109	22	74	1216

知っているのが83%で、男女ともに、よく認知されている。

M) 限定正社員

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	2	3	5	1	11
研究職	男性	64	68	163	27	322
	女性	10	10	37	5	62
一般職	男性	79	147	220	29	475
	女性	25	20	61	10	116
非常勤	男性	9	23	36	1	69
	女性	22	44	87	8	161
	計	211	315	609	81	1216

民間企業中心の取り組みで、知っているのは17%と認知度は低い。

N) ジョブ型雇用

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	3	5	2	1	11
研究職	男性	89	86	118	29	322
	女性	10	15	32	5	62
一般職	男性	54	142	252	27	475
	女性	13	27	67	9	116
非常勤	男性	8	18	41	2	69
	女性	15	39	98	9	161
	計	192	332	610	82	1216

知っているのは16%だが、今後の労働環境の変化のキーワードとなる可能性がある。研究職の採用は現在のところほとんどジョブ型と言えそう。

O) タスク型雇用

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	3	3	4	1	11
研究職	男性	59	80	153	30	322
	女性	9	10	38	5	62
一般職	男性	40	110	297	28	475
	女性	7	25	75	9	116
非常勤	男性	6	20	41	2	69
	女性	7	35	109	10	161
	計	131	283	717	85	1216

知っているのは11%だが、研究所でのポストドク雇用などがこれにあたる。

P) メンバーシップ雇用

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	3	1	6	1	11
研究職	男性	46	69	176	31	322
	女性	7	7	43	5	62
一般職	男性	51	111	286	27	475
	女性	12	22	73	9	116
非常勤	男性	7	15	45	2	69
	女性	11	41	100	9	161
	計	137	266	729	84	1216

知っているのは11%だが、試験での採用は多くがメンバーシップ型雇用にあたる。

Q) レコメンドリクルーティング

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
	役員	1	1	8	1	11
研究職	男性	13	38	238	33	322
	女性	6	5	46	5	62
一般職	男性	16	52	378	29	475
	女性	2	10	92	12	116
非常勤	男性	4	3	60	2	69
	女性	1	19	129	12	161
	計	43	128	951	94	1216

知っているという回答が4%未満で、認知度が最も低い語彙だった。

R) ダイレトリクルーティング

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		1	1	8	1	11
研究職	男性	31	48	210	33	322
	女性	8	4	44	6	62
一般職	男性	35	76	335	29	475
	女性	8	12	84	12	116
非常勤	男性	8	11	49	1	69
	女性	11	27	109	14	161
計		102	179	839	96	1216

転職の誘いがないためか、知っているのは8%と少ない。

S) フレックスタイム制

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		8	1	1	1	11
研究職	男性	278	8	4	32	322
	女性	56	0	0	6	62
一般職	男性	401	35	7	32	475
	女性	92	8	2	14	116
非常勤	男性	52	8	5	4	69
	女性	138	8	3	12	161
計		1025	68	22	101	1216

知っているのが84%で、無回答が次に多い。

T) クロスアポイントメント制度

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		6	3	1	0	10
研究職	男性	161	63	64	34	322
	女性	32	10	15	5	62
一般職	男性	88	111	241	35	475
	女性	21	30	51	14	116
非常勤	男性	10	13	45	1	69
	女性	3	23	121	14	161
計		321	253	538	103	1215

知っているのは全体で25%、研究職で50%。利用者が増えれば認識が広まるだろう。

1.3: 第5期中長期計画期間におけるダイバーシティ推進策では、女性管理職・女性研究職・女性一般職・女性採用者の比率について数値目標を設定して取り組んでいます。このことをご存じです

		知っている	聞いたことはある	知らない (聞いたことがない)	無回答	計
役員		6	4	0	1	11
研究職	男性	194	69	25	34	322
	女性	45	11	1	5	62
一般職	男性	221	159	63	32	475
	女性	63	28	11	14	116
非常勤	男性	18	29	21	1	69
	女性	40	52	54	15	161
計		587	352	175	102	1216

数値目標の取り組みを「知っている」のは全体で48%、研究職で62%、役員で55%。

1.4: ダイバーシティ推進室のホームページを閲覧したことはありますか？

		ある	ない	無回答	計
役員		4	5	1	10
研究職	男性	192	95	35	322
	女性	45	12	5	62
一般職	男性	141	301	33	475
	女性	52	50	14	116
非常勤	男性	15	53	1	69
	女性	54	92	15	161
計		503	608	104	1215

閲覧したことがあるのは研究職で62%、全体では41%。500人以上は見ている。

1.5: 前の質問でホームページを閲覧したことが「ある」と答えた方は、ダイバーシティ推進室のホームページで何を見たかお答えください（複数回答可）

		森林機構の ダイバーシ ティ推進体 制や実施計 画	保育支援, 研究支援, 育児介護休 暇等の情報	イクメン・ 介護コラム	男女共同参画 関連セミナー, 助成金公募, 育児介護情報	上記以外	忘れた, はっきり 覚えてい ない	無回答	回答計	該当者
役員		4	0	0	0	0	1	0	5	4
研究職	男性	56	50	48	16	2	21	1	194	192
	女性	14	19	5	3	1	3	0	45	45
一般職	男性	63	33	22	6	1	18	0	143	141
	女性	15	20	8	1	0	8	0	52	52
非常勤	男性	8	4	2	1	0	0	0	15	15
	女性	9	21	21	2	0	1	0	54	54
計		169	147	106	29	4	52	1	508	503

機構のダイバーシティ推進体制や保育支援等の情報について、全体の1割以上の役職員が見ており、イクメン・介護コラムも100人以上が見ている。

2. 仕事と生活の調和について

2-1: 日常の「仕事」, 「家庭生活」, 「地域活動」, 「学習・趣味」についてお伺いします。バランスがうまく取れていると思いますか？

		はい	いいえ	わからない	無回答	計
役員		6	2	3	0	11
研究職	男性	132	105	77	8	322
	女性	22	27	11	2	62
一般職	男性	151	202	113	9	475
	女性	44	44	25	3	116
非常勤	男性	37	15	16	1	69
	女性	95	27	34	5	161
男女職種別計		487	422	279	28	1216
18-29歳		64	43	26	4	137
30-39歳		58	64	30	5	157
40-49歳		118	138	90	9	355
50-59歳		162	135	95	9	401
60歳以上		85	42	38	1	166
年代別計		487	422	279	28	1216

全体の 35%がバランスが取れていないと回答。研究職女性, 一般職男性で「いいえ」の割合が高い。役員, 非常勤職員は「はい」の割合が高い。

2-2: 設問 2.1 で「1: はい」と答えた方にお聞きします。バランスがうまく取れている理由は下記にありますか？ 以下からお選びください（複数回答可）

		「家庭生活」が充実している	「仕事」が充実している	「学習・趣味」が充実している	「地域活動」が充実している	上記以外が充実している	ない	わからない	無回答	回答計	該当者
役員		5	3	4	0	0	0	0	0	12	6
研究職	男性	86	86	63	13	5	9	3	0	265	132
	女性	12	14	7	1	0	2	2	0	38	22
一般職	男性	81	69	76	8	8	5	8	0	255	151
	女性	18	15	27	2	4	1	2	0	69	44
非常勤	男性	20	29	18	5	3	2	0	0	77	37
	女性	70	52	45	13	5	0	3	1	189	95
男女職種別計		292	268	240	42	25	19	18	1	905	487
18-29歳		22	26	43	0	2	3	3	0	99	64
30-39歳		28	32	33	4	1	2	1	1	102	58
40-49歳		83	67	54	17	4	5	0	0	230	118
50-59歳		104	89	71	9	10	6	10	0	299	162
60歳以上		55	54	39	12	8	3	4	0	175	85
年代別計		292	268	240	42	25	19	18	1	905	487

研究職では「仕事」, 役員, 一般職では「家庭生活」「学習・趣味」の充実を選択した人が多い。年代別では, 10~30代では「学習・趣味」, 40代以上では「家庭生活」を選択した人が多い。

2-3: 設問 2.1 で「2: いいえ」と答えた方にお聞きます。バランスがうまく取れていない要因は下記にありますか？以下からお選びください（複数回答可）

		仕事	家庭生活	学習・趣味	地域活動	上記以外	わからない	無回答	回答計	該当者
役員		0	2	1	2	0	0	0	5	2
研究職	男性	61	29	21	19	16	7	1	154	105
	女性	20	14	3	7	3	0	2	49	27
一般職	男性	152	50	25	20	17	6	4	274	202
	女性	29	15	9	7	3	3	0	66	45
非常勤	男性	7	4	5	5	2	1	0	24	15
	女性	11	11	11	5	5	0	0	43	27
男女職種別計		280	125	75	65	46	17	7	615	422
18-29歳		30	6	9	8	3	1	2	59	43
30-39歳		46	15	7	1	9	4	2	84	64
40-49歳		104	46	20	16	8	5	3	202	138
50-59歳		82	44	28	27	21	4	0	206	135
60歳以上		18	14	11	13	5	3	0	64	42
年代別計		280	125	75	65	46	17	7	615	422

すべての職種・性別・年代で「仕事」が最も多く、特に研究職女性、一般職男性、年代別では10～40代で「仕事」と回答した人の割合が高い。また、「家庭生活」と回答した人の割合は、すべての職種で女性が男性を上回っており、年代別では40代以上で高い。

2-4: あなたの仕事と生活のバランスをより良いものにするにはどうすればよいと考えますか？以下からお選びください（複数回答可）

		「仕事」 の調整と 工夫	「家庭生 活」の調 整と工夫	「学習・趣 味」の調 整と工夫	「地域活 動」の調 整と工夫	上記以外 の調整と 工夫	ない	わからない	無回答	計
役員		5	4	7	6	3	0	1	0	26
研究職	男性	184	112	81	33	33	17	42	14	516
	女性	39	22	9	3	7	2	7	5	94
一般職	男性	322	114	95	43	34	13	49	11	681
	女性	75	37	29	7	10	5	13	3	179
非常勤	男性	36	31	24	7	3	4	8	1	114
	女性	63	83	54	17	13	6	19	7	262
男女職種別計		724	403	299	116	103	47	139	41	1872
18-29歳		80	33	50	12	7	5	8	7	202
30-39歳		99	48	34	14	11	6	17	5	234
40-49歳		223	124	71	25	29	11	35	15	533
50-59歳		231	132	92	44	41	17	57	12	626
60歳以上		91	66	52	21	15	8	22	2	277
年代別計		724	403	299	116	103	47	139	41	1872

ほとんどの職種・性別・年代で「仕事」の調整と工夫が最も多い。

2-5: 仕事と生活の調和を図るためには、どの支援や制度が効果的だと思いますか？以下からお選びください（複数回答可）

	在宅勤務制度（テレワーク制度）	裁量労働制	休暇・休業制度の改善	フレックスタイム制	Web会議システム	早出遅出勤務制度	業務用PC貸与	短時間勤務制度	一時預り保育支援制度	補助員雇用支援	意識啓発広報	テレビ会議システム	上記以外	効果的な支援や制度はない	わからない	無回答	計
役員	8	4	6	6	6	6	5	5	3	4	1	3	1	0	0	0	58
研究職																	
男性	165	205	97	75	145	71	63	69	86	63	52	67	41	14	28	13	1254
女性	49	49	18	23	40	18	20	20	20	20	23	16	4	1	0	5	326
一般職																	
男性	185	66	144	131	102	113	119	80	45	59	60	42	76	30	35	8	1295
女性	55	19	36	49	26	33	38	39	24	18	20	18	17	2	10	3	407
非常勤																	
男性	19	16	25	32	9	19	8	14	7	13	5	5	1	1	12	1	187
女性	53	24	44	48	25	32	17	40	31	15	17	14	6	2	34	8	410
男女職種別計	534	383	370	364	353	292	270	267	216	192	178	165	146	50	119	38	3937
18-29歳	74	30	45	57	30	40	42	36	24	17	10	22	11	3	8	6	455
30-39歳	95	69	60	54	67	42	45	47	47	32	25	35	12	0	10	5	645
40-49歳	157	114	99	94	108	92	80	74	60	58	57	46	53	19	32	13	1156
50-59歳	165	131	117	105	124	82	81	81	65	59	63	53	59	22	41	13	1261
60歳以上	43	39	49	54	24	36	22	29	20	26	23	9	11	6	28	1	420
年代別計	534	383	370	364	353	292	270	267	216	192	178	165	146	50	119	38	3937

どの職種・性別でも「在宅勤務制度」を選択した人が多い。研究職では「裁量労働制」「ウェブ会議システム」を選択した人が多い。役員、一般職、非常勤では「フレックス制度」「休暇・休業制度の改善」を選択した人が多い。

2-6: 自分の職務を行う上で課題となっているものはありますか？ある場合は程度の高いものから最大3つお選びください。

	仕事量の多いこと	職場の人間関係	職務を行うための補助者がいないこと	職務を行うための時間が十分取れないこと	職務を行うための設備やスペースの不足	業務費の金額の不足	家事に割く時間等	家庭・家族の人間関係に割く時間等	妊娠・出産、育児・子供の教育に割く時間等	介護・看病に割く時間等	性差別があること	上記以外	ない	わからない	無回答	計
役員	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5	0	1	11
研究職																
男性	118	71	55	73	49	66	22	16	10	11	1	45	25	15	24	601
女性	22	12	12	21	8	8	6	3	17	0	3	10	3	1	4	130
一般職																
男性	220	121	106	70	44	27	15	17	11	6	4	43	41	26	19	770
女性	37	36	10	14	9	4	22	10	10	4	3	13	12	9	5	198
非常勤																
男性	17	14	2	5	7	3	3	3	1	4	0	4	25	2	5	95
女性	8	35	3	4	11	3	15	7	6	8	0	11	69	11	17	208
男女職種別計	423	291	188	187	129	111	83	56	55	33	11	127	180	64	75	2013
18-29歳	19	18	9	8	6	3	11	4	4	0	4	18	21	12	11	148
30-39歳	69	40	27	29	25	14	18	8	20	1	4	12	15	9	7	298
40-49歳	155	91	67	66	29	27	34	24	25	5	2	27	42	14	27	635
50-59歳	137	113	70	63	45	58	13	16	5	15	1	54	56	17	25	688
60歳以上	43	29	15	21	24	9	7	4	1	12	0	16	46	12	5	244
年代別計	423	291	188	187	129	111	83	56	55	33	11	127	180	64	75	2013

「仕事量の多いこと」が最も多く、特に30、40代で多い。「職場の人間関係」は2割以上で、一般職で多い。「職務を行うための時間が十分取れないこと」は、研究職で多い。「家事に割く時間等」「妊娠・出産、育児・子供の教育に割く時間等」は男性より女性の方が多い。

2-7: 自分の職務を行う上での助けとなっているものはありますか、ある場合は最大3つお選びください。

		職場の雰囲気	指導者、上司	安定した家庭生活	研究職、一般職の相互の交流	家事の役割分担	支援策の充実	業務費	業績評価	競争的な雰囲気	上記以外	ない	わからない	無回答	計
役員		8	5	3	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	20
研究職	男性	162	111	102	98	19	14	28	7	1	20	25	21	29	637
	女性	34	15	18	9	12	11	4	2	1	4	5	1	9	125
一般職	男性	256	228	120	46	15	10	2	8	1	24	48	36	22	816
	女性	60	62	36	10	12	7	0	1	0	6	4	6	9	213
非常勤	男性	44	47	14	4	3	2	1	2	0	2	2	5	5	131
	女性	95	70	59	11	17	5	3	0	0	8	8	9	19	304
男女職種別計		659	538	352	179	79	49	38	20	3	66	92	78	93	2246
18-29歳		84	95	32	12	4	2	1	2	0	6	5	8	9	260
30-39歳		93	85	36	28	14	7	9	3	2	3	11	6	7	304
40-49歳		187	158	112	51	36	20	14	8	1	15	28	17	34	681
50-59歳		211	130	122	70	16	14	12	4	0	31	35	33	32	710
60歳以上		84	70	50	18	9	6	2	3	0	11	13	14	11	291
年代別計		659	538	352	179	79	49	38	20	3	66	92	78	93	2246

ほぼすべての職種・性別・年齢で「職場の雰囲気」が最も多く、次いで「指導者・上司」が選択されている。「指導者・上司」は特に一般職、若年層で選択した人が多い。

2-8: 設問 2.7 で「7: 支援策の充実」と答えた方にお聞きます。どのような支援策が該当しますか。

以下からお選びください（複数回答可）

		保育支援	業務の支援	研究支援	介護支援	上記以外	無回答	回答計	該当者
役員		0	0	0	0	0	0	0	0
研究職	男性	7	7	9	4	2	1	30	10
	女性	3	4	8	0	3	1	19	14
一般職	男性	2	6	0	2	2	0	12	2
	女性	4	1	0	1	3	0	9	7
非常勤	男性	1	1	0	0	0	0	2	11
	女性	3	0	0	3	0	0	6	5
男女職種別計		20	19	17	10	10	2	78	49
18-29歳		1	2	1	0	0	0	4	2
30-39歳		5	1	4	0	2	0	12	7
40-49歳		9	7	6	2	6	1	31	20
50-59歳		5	6	4	6	2	1	24	14
60歳以上		0	3	2	2	0	0	7	6
年代別計		20	19	17	10	10	2	78	49

研究職男性、一般職女性、非常勤で「保育支援」、女性より男性の方で「業務の支援」が多く回答されている。問 2.7 で約 2 割の研究職女性が「支援策の充実」が助けとなっていると回答しているが、その約 6 割が「研究支援」と回答している。

3. 子育てについて

3-1: これまでに子育ての経験がありますか？

		ある	ない	無回答	計
役員		9	2	0	11
研究職	男性	216	98	8	322
	女性	31	27	3	61
一般職	男性	255	201	19	475
	女性	35	79	2	116
非常勤	男性	44	23	2	69
	女性	114	40	7	161
男女職種別計		704	470	41	1215
18-29歳		5	126	5	136
30-39歳		60	91	6	157
40-49歳		230	114	11	355
50-59歳		280	107	14	401
60歳以上		129	32	5	166
年代別計		704	470	41	1215

3-1 研究職・一般職共に男性は経験が多いのに対し、女性はほぼ同数または経験なしに偏っている。

年齢別では39歳以下と40歳以上で経験の有無が逆転している。

3-2 全体では時間的制約と精神的負担が大きな問題となっているが、一般職男性では経済的負担と配偶者の疾病に対して問題意識が高い。（回答の多い順に左から）

3-2: 「子育ての経験のある方にお聞きます」仕事と子育ての両立について、どのような問題や困難がありましたか。以下からお選びください（複数回答可）

		時間的制約が大きい	精神的負担が大きい	経済的負担が大きい	配偶者が病気になった際の対応	自分の病気の際の対応	周囲の理解が得られない	配置人数や代替要員の母集団が小さい	配偶者の協力が得られない	産休・育休の期間が足りない	上記以外	ない（なかった）	無回答	回答計	該当者
役員		5	2	4	3	3	0	1	0	1	0	0	0	19	9
研究職	男性	152	93	80	76	28	19	16	4	13	18	25	1	525	216
	女性	30	24	7	6	16	11	10	9	3	7	0	0	123	31
一般職	男性	168	92	129	114	25	26	41	3	19	12	17	1	647	255
	女性	31	25	14	2	13	13	8	13	5	5	1	1	131	35
非常勤	男性	25	12	21	17	2	1	4	1	1	2	3	0	89	44
	女性	74	57	38	11	34	11	1	38	7	5	13	1	290	114
男女職種別計		485	305	293	229	121	81	81	68	49	49	59	4	1824	704
18-29歳		4	3	3	4	1	1	3	0	2	1	0	0	22	5
30-39歳		52	34	22	16	11	8	14	7	6	6	0	0	176	60
40-49歳		180	113	91	71	57	34	39	32	13	14	8	3	655	230
50-59歳		179	120	118	95	41	27	15	17	15	16	39	1	683	280
60歳以上		70	35	59	43	11	11	10	12	13	12	12	0	288	129
年代別計		485	305	293	229	121	81	81	68	49	49	59	4	1824	704

3-3: [子育ての経験のある方にお聞きます] 子育てについて職場の同僚や上司からの理解は得られていましたか。

		得られている (得られていた)	得られていない (得られていなかった)	どちらとも言えない	わからない	無回答	計
役員		4	2	1	1	1	9
研究職	男性	173	12	22	8	1	216
	女性	22	0	8	1	0	31
一般職	男性	147	12	62	31	3	255
	女性	19	2	14	0	0	35
非常勤	男性	21	1	14	6	2	44
	女性	74	5	12	19	4	114
男女職種別計		460	34	133	66	11	704
18-29歳		5	0	0	0	0	5
30-39歳		44	1	10	4	1	60
40-49歳		159	10	43	14	4	230
50-59歳		181	16	50	30	3	280
60歳以上		71	7	30	18	3	129
年代別計		460	34	133	66	11	704

理解が得られていると回答したのは研究職：79%、一般職：57%、非常勤：60%。一般職女性では54%でやや低い。

3-4: 契約した民間保育施設を必要が生じたときに一時預り保育施設として利用できる制度がある
と良いと考えますか。

		はい	いいえ	どちらとも言えない	わからない	無回答	計
役員		7	2	0	2	0	11
研究職	男性	217	2	28	53	22	322
	女性	39	0	6	5	12	62
一般職	男性	267	14	63	82	50	476
	女性	62	3	14	19	18	116
非常勤	男性	39	2	14	8	6	69
	女性	113	0	11	16	21	161
男女職種別計		744	23	136	185	129	1217
18-29歳		72	3	11	28	23	137
30-39歳		96	2	17	23	19	157
40-49歳		224	9	43	42	38	356
50-59歳		249	5	44	67	36	401
60歳以上		103	4	21	25	13	166
年代別計		744	23	136	185	129	1217

はい：61%。いいえ：2%。その他（わからないなど）：37%で、「いいえ」は少なく、「はい」が多い。

3-5: [研究所・育種 C・保険 C に所属の職員に聞きます] 契約した民間保育施設を一時預り保育施設として非常勤職員も利用可能であることを知っていますか。

		はい	いいえ	無回答	計
役員		6	2	0	8
研究職	男性	152	141	29	322
	女性	38	16	8	62
一般職	男性	103	71	18	192
	女性	29	26	11	66
非常勤	男性	12	24	7	43
	女性	52	70	39	161
男女職種別計		392	350	112	854
18-29歳		13	41	17	71
30-39歳		49	53	14	116
40-49歳		107	107	29	243
50-59歳		159	115	38	312
60歳以上		64	34	14	112
年代別計		392	350	112	854

知っているのが46%で、まだ知らない人も多い。

3.6: [研究所・育種 C・保険 C に所属の職員に聞きます] 契約した民間保育施設を一時預り保育施設として出張時も利用可能であることを知っていますか。

		はい	いいえ	無回答	計
役員		5	3	0	8
研究職	男性	153	141	28	322
	女性	40	14	8	62
一般職	男性	110	64	18	192
	女性	30	25	11	66
非常勤	男性	11	24	8	43
	女性	35	82	44	161
男女職種別計		384	353	117	854
18-29歳		12	44	15	71
30-39歳		37	61	18	116
40-49歳		125	87	31	243
50-59歳		152	119	41	312
60歳以上		58	42	12	112
年代別計		384	353	117	854

知っているのが45%で、まだ知らない人も多い。

3.7: [研究所・育種 C に所属の職員に聞きます] 一時預り保育施設として研究所（つくば）に「どんぐりるーむ」、関西支所（京都）に「すぎのこ」があることを知っていますか。

		はい	いいえ	無回答	計
役員		6	1	0	7
研究職	男性	262	33	27	322
	女性	51	2	9	62
一般職	男性	132	22	18	172
	女性	43	4	10	57
非常勤	男性	18	10	7	35
	女性	82	38	39	159
男女職種別計		594	110	110	814
18-29歳		32	18	15	65
30-39歳		81	15	16	112
40-49歳		163	39	31	233
50-59歳		233	28	39	300
60歳以上		85	10	9	104
年代別計		594	110	110	814

知っている人が73%。非常勤を除けば約8割。

4. 介護について

4.1: これまでに介護の経験がありますか？

		ある	ない	無回答	計
役員		3	8	0	11
研究職	男性	56	258	8	322
	女性	15	43	4	62
一般職	男性	55	400	20	475
	女性	13	100	3	116
非常勤	男性	18	48	3	69
	女性	44	114	3	161
男女職種別計		204	971	41	1216
18-29歳		5	126	6	137
30-39歳		7	143	7	157
40-49歳		30	310	15	355
50-59歳		93	297	11	401
60歳以上		69	95	2	166
年代別計		204	971	41	1216

およそ 17%の職員に介護経験がある。その比率は年齢層が上がるにつれて高くなる。

4.2: [介護の経験のある方にお聞きします] 仕事と介護の両立について、どのような問題や困難がありましたか。以下からお選びください（複数回答可）

		精神的負担が大きい	時間的制約が大きい	経済的負担が大きい	距離的制約	自分の病気の対応	介護休業の期間が足りない	周囲の理解が得られない 対応	配偶者が病気になった際の	家族の協力が得られない	配置人数や代替え要員母集 団が少ない	上記以外	ない（なかった）	無回答	計
役員		1	1	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7
研究職	男性	48	46	28	35	7	10	8	3	4	6	4	4	0	203
	女性	13	12	6	10	2	6	3	2	3	3	0	0	0	60
一般職	男性	41	38	29	19	12	7	11	12	7	1	0	2	0	179
	女性	9	11	6	4	2	2	2	1	1	4	1	1	0	44
非常勤	男性	15	8	7	5	2	1	0	3	0	0	0	1	0	42
	女性	38	28	14	12	14	10	8	5	8	2	2	1	1	143
男女職種別計		165	144	91	88	39	36	32	27	23	16	7	9	1	678
18-29歳		4	5	3	1	0	0	1	0	1	2	0	0	0	17
30-39歳		7	7	6	4	0	0	3	0	1	1	1	0	0	30
40-49歳		23	21	12	14	9	2	6	3	3	4	2	1	0	100
50-59歳		78	66	43	41	17	19	14	10	12	5	2	5	0	312
60歳以上		53	45	27	28	13	15	8	14	6	4	2	3	1	219
年代別計		165	144	91	88	39	36	32	27	23	16	7	9	1	678

経済的負担は一般職・非常勤がやや高く、距離的制約は研究職がやや高い。

4.3: [介護の経験のある方にお聞きします] 仕事と介護の両立のためにどの支援や制度が効果的だと考えますか。以下からお選びください（複数回答可）

		在宅勤務制度	介護サービス利用費補助制度	介護施設、介護ヘルパーの紹介、斡旋	介護のための遠隔地に通う場合の費用補助	介護に関する相談窓口の設置	介護休業中の代替要員の確保	既存の制度の拡充	被介護者との同居等のための引越し費用補助	上記以外	ない	わからない	無回答	回答計	該当者
役員		1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	8	3
研究職	男性	33	22	16	23	18	14	8	8	3	1	8	0	154	56
	女性	9	4	5	4	5	5	7	2	1	0	2	0	44	15
一般職	男性	26	27	24	16	13	16	13	11	4	1	1	0	152	55
	女性	6	4	6	3	5	5	4	2	2	0	1	1	39	13
非常勤	男性	8	8	4	5	2	4	3	1	1	1	2	0	39	18
	女性	9	17	11	7	14	5	12	1	2	2	4	1	85	44
男女職種別計		92	83	67	59	58	50	47	26	13	5	19	2	521	204
18-29歳		2	2	3	2	1	2	1	1	0	0	1	0	15	5
30-39歳		5	3	2	4	4	2	3	5	0	0	0	0	28	7
40-49歳		17	9	9	8	7	11	9	7	5	1	3	1	87	30
50-59歳		48	37	32	25	30	19	16	7	2	3	10	0	229	93
60歳以上		20	32	21	20	16	16	18	6	6	1	5	1	162	69
年代別計		92	83	67	59	58	50	47	26	13	5	19	2	521	204

支援や制度への要望は多岐にわたるが、コロナ禍を反映してか在宅勤務制度の充実を求める声が多い。

4.4: [介護の経験のある方にお聞きします] 介護していることを職場の同僚や上司に話しましたか。

		話した	話してない	無回答	計
役員		1	2	0	3
研究職	男性	33	22	1	56
	女性	11	4	0	15
一般職	男性	39	15	1	55
	女性	6	5	2	13
非常勤	男性	15	3	0	18
	女性	28	10	6	44
男女職種別計		133	61	10	204
18-29歳		0	5	0	5
30-39歳		4	2	1	7
40-49歳		12	15	3	30
50-59歳		69	21	3	93
60歳以上		48	18	3	69
年代別計		133	61	10	204

「話した」の割合は研究職では女性、一般職・非常勤では男性のほうが高い。また、年齢が上がるほど「話した」割合は高い。

5. キャリアアップについて

5-1: 現在の職場で管理職になりたいですか.

役員、非常勤職員を除く

		はい	いいえ	わからない	該当しない*	無回答	計
研究職	男性	27	161	75	54	5	322
	女性	3	34	16	6	3	62
一般職	男性	48	157	137	116	17	475
	女性	6	58	41	8	3	116
男女職種別計		84	410	269	184	28	975
18-29歳		20	43	58	0	3	124
30-39歳		11	71	55	0	4	141
40-49歳		28	144	89	21	12	294
50-59歳		24	139	66	94	8	331
年代別計		83	397	268	115	27	890

「いいえ」の割合が多く、特に女性は顕著。若年層（18-29 歳）では比較的「はい」が多い。

男女職種別では 60 歳以上を含んでいるため、年代別とは回答数が一致しない。

5-2: 現在の職場で管理職になれると思いますか.

役員、非常勤職員を除く

		はい	いいえ	わからない	該当しない*	無回答	計
研究職	男性	48	79	128	61	6	322
	女性	8	15	29	7	3	62
一般職	男性	55	103	175	123	19	475
	女性	5	40	59	9	3	116
男女職種別計		116	237	391	200	31	975
18-29歳		9	27	82	3	3	124
30-39歳		18	34	85	0	4	141
40-49歳		38	79	139	25	13	294
50-59歳		50	88	84	99	10	331
年代別計		115	228	390	127	30	890

一般職女性で「いいえ」の割合が顕著に多い。年代が上になるほど「はい」の割合が多い。

男女職種別では 60 歳以上を含んでいるため、年代別とは回答数が一致しない。

5-3: 女性の管理職員が増加し活躍することについてどう思いますか。

		望ましい	望ましくない	どちらとも言えない	わからない	無回答	計
役員		7	0	3	1	0	11
研究職	男性	215	3	82	16	6	322
	女性	42	0	16	1	3	62
一般職	男性	291	5	134	30	15	475
	女性	65	2	41	6	2	116
非常勤	男性	45	3	9	6	6	69
	女性	118	1	25	11	6	161
男女職種別計		783	14	310	71	38	1216
18-29歳		90	1	30	12	4	137
30-39歳		95	1	47	9	5	157
40-49歳		230	5	90	16	14	355
50-59歳		263	3	107	21	7	401
60歳以上		105	4	36	13	8	166
年代別計		783	14	310	71	38	1216

多数の人が女性の管理職員の増加・活躍を「望ましい」と思っている。

5-4: [研究所・育種 C に所属の職員に聞きます] 研究職員のキャリア育成（研究論文等の業績の蓄積，プロジェクトリーダー等の経験等）に必要な環境，機会は何ですか。最大3つお選びください。

	計	無回答	わからない	上記以外	クロスアポイントメント	管理職候補者に対する研修	成果発表の機会の増加	スキルアップのための研修、資格の取得	メンター制度の導入	上司などからの指導	国内外の人事交流・出向	管理的立場の経験	競争的資金への応募	育児・介護支援策の拡充	周囲の理解	プロジェクトの形成、実施の経験	能力の適切な評価
役員	19	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3	2	1	1	1	2	6
研究職	男性	8	14	21	10	28	26	33	33	47	50	64	63	56	97	127	138
	女性	3	4	7	3	3	7	4	9	5	7	5	10	24	19	21	26
男女職種別計	991	11	18	29	13	31	33	39	42	52	60	71	74	81	117	150	170
18-29歳	34	1	1	1	0	0	2	2	3	6	0	1	3	1	6	6	1
30-39歳	151	4	0	6	5	5	6	3	9	5	11	5	11	17	17	21	26
40-49歳	273	2	7	6	4	7	9	8	8	14	13	23	23	26	36	42	45
50-59歳	427	4	7	14	4	16	14	23	16	18	29	33	30	26	51	65	77
60歳以上	106	0	3	2	0	3	2	3	6	9	7	9	7	11	7	16	21
年代別計	991	11	18	29	13	31	33	39	42	52	60	71	74	81	117	150	170

「能力の適切な評価」が最も多いのは一般職と同じだが、「プロジェクトの形成、実施の経験」もほぼ同等に多い。

5-5: 一般職員のキャリア育成に必要な環境，機会は何ですか．最大3つお選びください．

		能力の適切な評価	スキルアップのための研修，資格の取得	育児・介護支援策の拡充	管理職候補者に対する研修	周囲の理解	上司などからの指導	管理的立場への積極的登用	機構内外の人事交流・出向	メンター制度の導入	上記以外	わからない	無回答	計
役員		7	4	2	0	2	0	5	5	0	1	1	0	27
一般職	男性	280	142	114	116	111	102	100	68	25	15	28	24	1125
	女性	72	34	42	30	31	18	10	19	16	6	6	3	287
男女職種別計		359	180	158	146	144	120	115	92	41	22	35	27	1439
18-29歳		61	42	30	18	30	35	14	22	11	2	8	4	277
30-39歳		55	19	32	20	24	13	8	13	7	6	5	4	206
40-49歳		115	49	36	41	45	31	27	25	14	7	5	14	409
50-59歳		92	52	46	52	36	34	49	27	8	3	13	4	416
60歳以上		36	18	14	15	9	7	17	5	1	4	4	1	131
年代別計		359	180	158	146	144	120	115	92	41	22	35	27	1439

「能力の適切な評価」が圧倒的に多い。

6. 多様な働き方（勤務形態）について

6-1: 2020 年に新型コロナウイルスの感染症拡大がありましたが、これに伴って自宅等勤務を行いましたか。

		行った	行わなかった	非該当	無回答	計
役員		9	2	0	0	11
研究職	男性	234	82	0	6	322
	女性	48	11	0	3	62
一般職	男性	372	87	1	15	475
	女性	89	24	0	3	116
非常勤	男性	44	23	0	2	69
	女性	78	78	0	5	161
男女職種別計		874	307	1	34	1216
18-29歳		86	47	0	4	137
30-39歳		115	36	1	5	157
40-49歳		258	84	0	13	355
50-59歳		291	101	0	9	401
60歳以上		124	39	0	3	166
年代別計		874	307	1	34	1216

約 72%の職員が自宅等勤務を行った。18-29 歳層（約 63%）は他の年齢層（約 73～75%）よりも自宅等勤務を行った割合が低い。

6-2: 設問 6.1 で「1: 行った」と答えた方にお聞きます。最大何日連続で業務日に自宅等勤務を行いましたか。

		1日	2日	3日～5日	6日～10日	11日以上	無回答	計	該当者
役員		4	1	3	0	0	0	8	9
研究職	男性	43	34	72	25	59	1	234	234
	女性	30	5	13	8	15	0	71	48
一般職	男性	197	67	56	8	18	7	353	372
	女性	60	12	9	5	8	0	94	89
非常勤	男性	14	5	8	2	7	0	36	44
	女性	54	7	15	19	17	0	112	78
男女職種別計		402	131	176	67	124	8	908	874
18-29歳		46	15	10	3	9	2	85	86
30-39歳		52	13	29	8	20	1	123	115
40-49歳		125	41	47	25	38	1	277	258
50-59歳		122	46	65	23	37	3	296	291
60歳以上		57	16	25	8	20	1	127	124
年代別計		402	131	176	67	124	8	908	874

男性研究職は 3～5 日が最多。その他のカテゴリーでは 1 日が最多。全体で 1 日と回答した職員は 46%、11 日以上と回答した職員は 14.2%。

6-3: コロナ禍に伴いオンラインでの会議に参加しましたか(複数回答可)

		開催者として 参加した	発表者として 参加した	出席者として 参加した	参加しな かった	無回答	計
役員		2	2	9	1	0	14
研究職	男性	123	225	281	12	6	647
	女性	21	39	53	0	2	115
一般職	男性	88	52	330	91	16	577
	女性	7	11	65	40	3	126
非常勤	男性	2	8	31	31	4	76
	女性	2	3	11	128	22	166
男女職種別計		245	340	780	303	53	1721
18-29歳		7	21	85	41	5	159
30-39歳		33	57	108	31	6	235
40-49歳		87	106	227	84	21	525
50-59歳		109	134	271	80	16	610
60歳以上		9	22	89	67	5	192
年代別計		245	340	780	303	53	1721

常勤職員の約80%がオンライン会議に参加した。

6-4: [オンライン会議に参加した方にお聞きます] どこから参加しましたか(複数回答可)

		職場のデス ク	職場の談話 室・会議室	自宅等の個 室	自宅等の共 用スペース	上記以外	無回答	計	該当者
役員		7	3	4	3	1	0	18	10
研究職	男性	275	115	137	52	11	1	591	304
	女性	51	21	31	14	1	0	118	60
一般職	男性	142	260	38	22	10	1	473	368
	女性	27	46	8	4	2	1	88	73
非常勤	男性	14	17	6	4	0	0	41	34
	女性	9	2	4	2	0	0	17	11
男女職種別計		525	464	228	101	25	3	1346	860
18-29歳		41	52	14	2	3	1	113	91
30-39歳		74	61	44	18	2	1	200	120
40-49歳		144	138	73	40	8	1	404	250
50-59歳		214	160	80	35	10	0	499	305
60歳以上		52	53	17	6	2	0	130	94
年代別計		525	464	228	101	25	3	1346	860

研究職では「職場のデスク」、一般職では「職場の会議室」との回答が最多。

6-5: [Web会議に参加した方にお聞きます] そこでは何が必要と感じましたか(複数回答可)

		質の高い音声や 映像を送受信で きる通信設備・ 環境	周囲を気に しなくてよ い個室	情報セキュ リティ対策	ルールやマ ナーの理解	参加場所を わからなく する背景	上記以外	無回答	計	該当者
役員		8	5	5	3	1	0	0	22	10
研究職	男性	228	187	103	69	43	19	10	659	304
	女性	43	39	21	12	11	1	1	128	60
一般職	男性	281	172	120	70	28	10	6	687	368
	女性	58	25	22	15	11	1	5	137	73
非常勤	男性	27	11	9	5	2	1	0	55	34
	女性	10	6	4	3	2	0	0	25	11
男女職種別計		655	445	284	177	98	32	22	1713	860
18-29歳		73	30	23	13	3	4	5	151	91
30-39歳		95	69	41	33	17	5	2	262	120
40-49歳		192	135	77	59	31	4	6	504	250
50-59歳		227	169	114	58	40	15	6	629	305
60歳以上		68	42	29	14	7	4	3	167	94
年代別計		655	445	284	177	98	32	22	1713	860

どのカテゴリーにおいても「通信環境」と「会議用個室」が必要と感じている。

6-6: 森林機構がWeb会議にしっかりに対応できる組織となるためには何が必要だと考えますか
(複数回答可)。

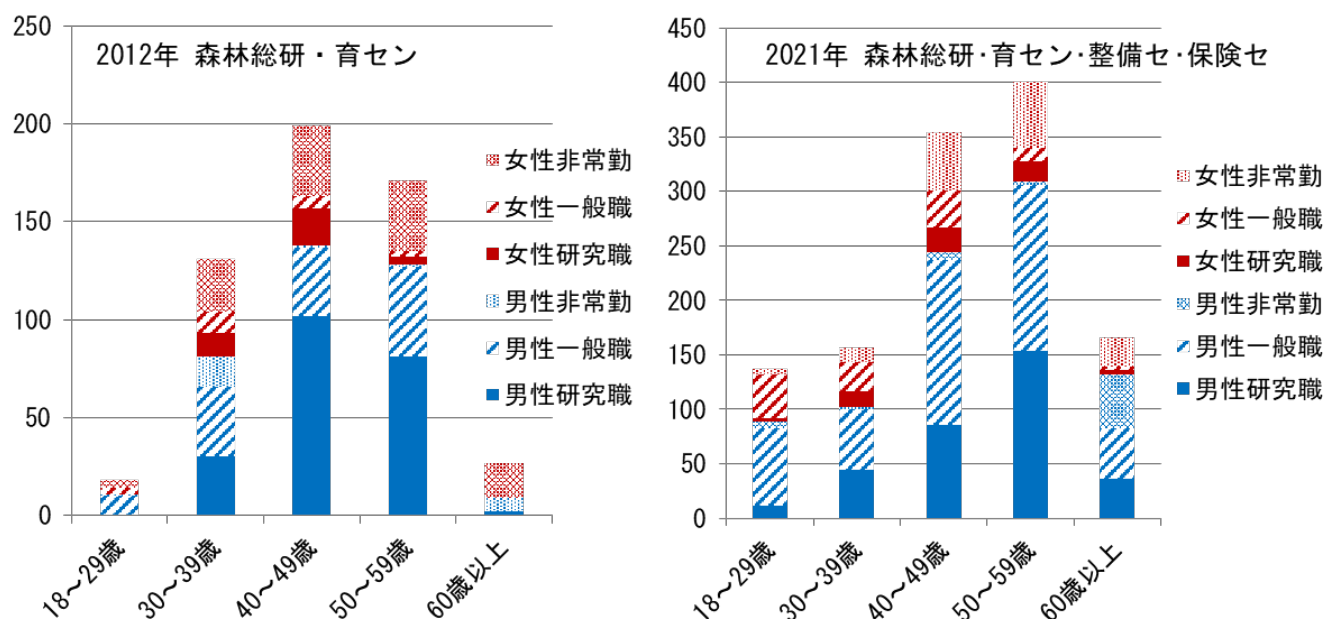
		質の高い 通信環境	Web会 議用個室	情報セ キュリ ティ対策	Web会 議参加の ための制 度	ルールやマナー 面でのサポート や教育及びマ ニュアル	森林機構 ロゴの背 景	上記以外	無回答	計
役員		9	6	3	2	2	0	0	1	23
研究職	男性	223	155	127	117	72	21	36	14	765
	女性	40	27	24	22	14	2	13	2	144
一般職	男性	343	192	173	94	124	25	17	27	995
	女性	83	49	47	31	38	2	10	11	271
非常勤	男性	48	18	20	11	15	1	3	9	125
	女性	71	47	65	25	32	1	5	53	299
男女職種別計		817	494	459	302	297	52	84	117	2622
18-29歳		97	42	48	41	27	3	8	8	274
30-39歳		112	65	57	44	44	11	12	13	358
40-49歳		234	139	122	94	95	10	26	37	757
50-59歳		266	186	171	87	89	23	32	37	891
60歳以上		108	62	61	36	42	5	6	22	342
年代別計		817	494	459	302	297	52	84	117	2622

どのカテゴリーにおいても最も必要だと考えられているのは「通信環境」。2番目に必要だと考えられているのは、常勤職員では「会議用個室」、非常勤職員では「セキュリティ対策」。

参考資料
2022 年男女共同参画週間 展示パネル
2012 年と 2021 年の男女共同参画意識調査結果の比較

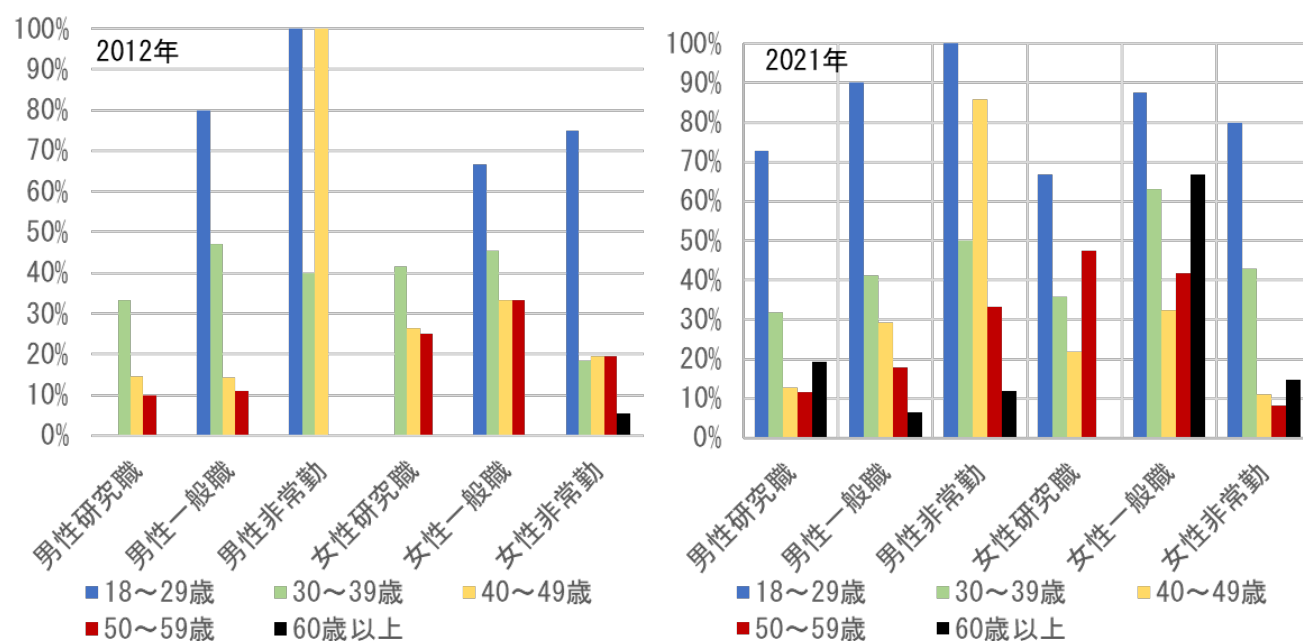
実施日：2022 年 6 月 23 日～29 日

2012年と2021年の男女共同参画意識調査結果の比較 職種・男女・年齢階層別回答者数



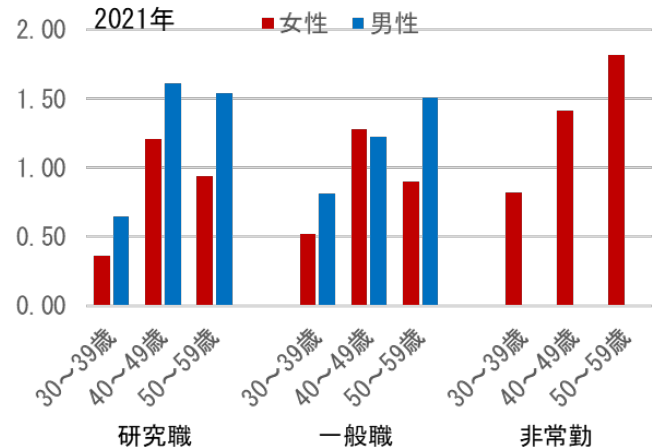
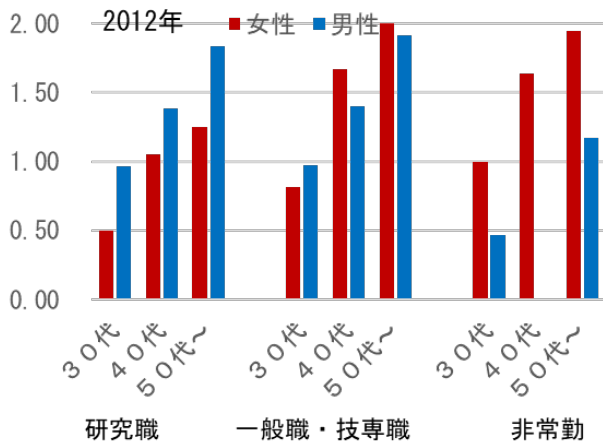
2021年には研究職の年齢構成が50代に偏り、若い年代の研究職が著しく少ない。
常勤職員では年齢階層が上に行くほど女性の比率が少なく、50歳以上では1割未満。
各年代の女性比率は2012年に比べて2021年の方が少しずつ高まっている。

配偶者の有無（配偶者がいない職員の率）



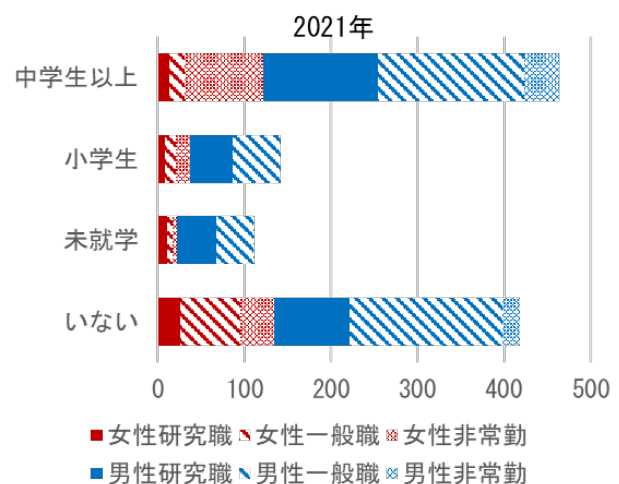
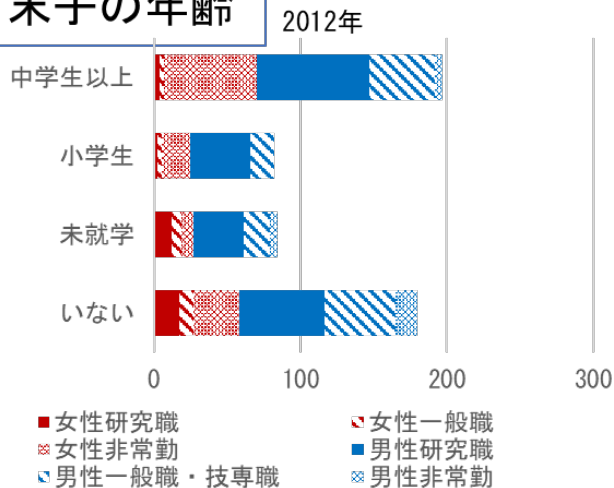
若い年代で配偶者がいない率が高いほか、40歳以上では女性一般職と男性非常勤で配偶者がいない率が男性常勤職よりも顕著に高く、その傾向は2021年の方が2012年よりもさらに進んだ。

職種別・年代別の平均子供数



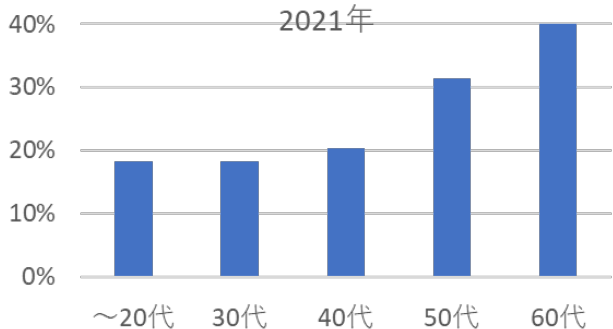
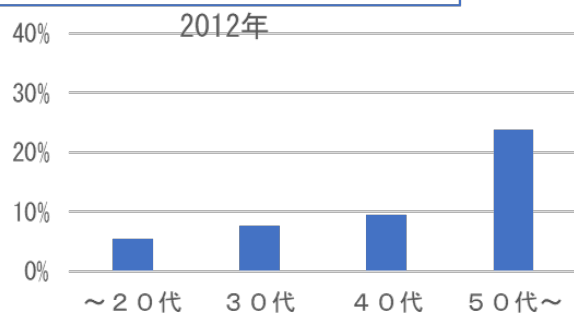
2021年には少子化が進んだ。とくに女性一般職で子供がいない率が高まり、平均子供数も減少した。女性研究職では40代の方が50代よりも子供がいる率が高い。50代常勤職女性の子供の数は平均1人未満に対し、非常勤女性では1.82人。男性研究職の40歳以上と女性非常勤は子供がいる率が高い。常勤の女性が子育てしにくい状況を反映しているのか。

末子の年齢



未就学児や小学生のいる職員の割合が低い。

要介護者がいる割合



2021年には要介護者がいる割合は各年代とも2012年よりも高まっている。とくに50代では30%あまり、60代では40%と高い。

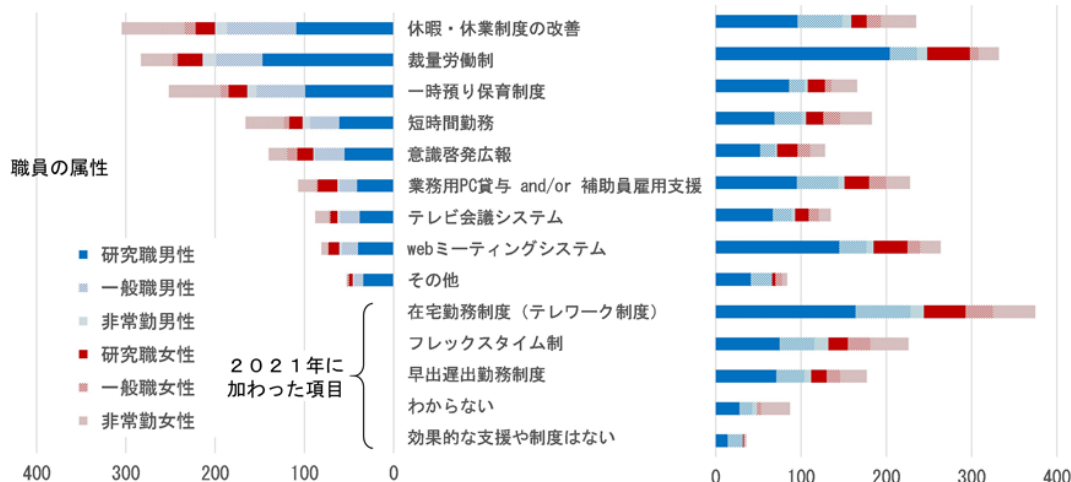
男女共同参画意識調査 2012 vs. 2021

仕事と生活の調和のため、どの支援や制度が効果的だと思いますか？（複数回答）

2012年 (n=543)

2021年 (n=805)

(単位：人)



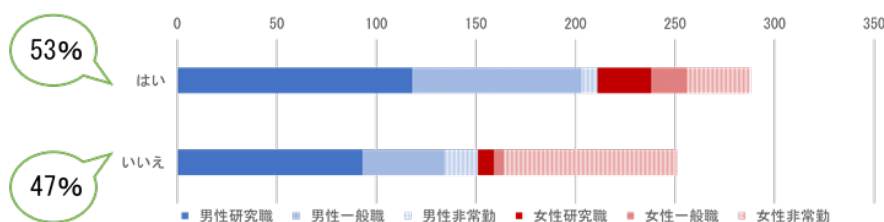
2012→2021の変化

「裁量労働制」「Web会議システム」「業務用PC・補助員雇用」の順位が上昇
「Web会議システム」は、すべての職員属性で回答者の割合が増加。

一時預かり保育施設を出張時に利用できるの知ってる？

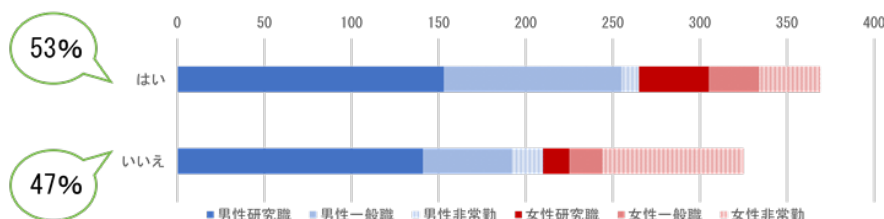
2012年

(あとで消す) 2012_4.4 どんぐり、すぎのこ、民間保育施設は出張時も利用可能であることを知っていますか?(支所の人が本所出張時、又はその逆、支所-支所間など)



2021年

(あとで消す) 2021_3.6: 【研・育・保】契約した民間保育施設を一時預かり保育施設として出張時も利用可能であることを知っていますか？



「いいえ」よりも「はい」が多いが、認知度は変わっていない(T^T)
出張時にもどんぐり、すぎのこ、契約した民間保育施設を一時預かり保育施設として利用可能です！

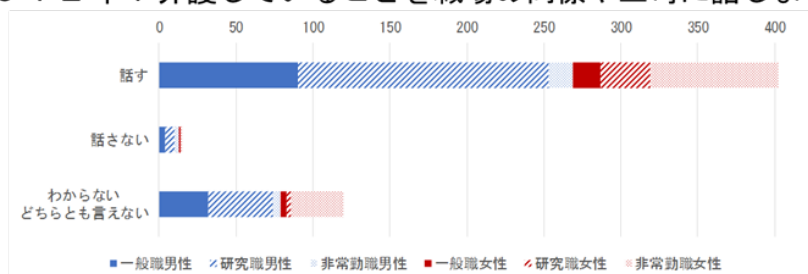


ダイバーシティ推進室

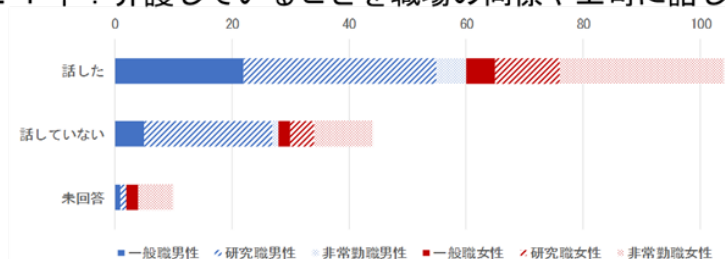
男女共同参画意識調査 2012 vs. 2021

介護

2012年：介護していることを職場の同僚や上司に話しますか



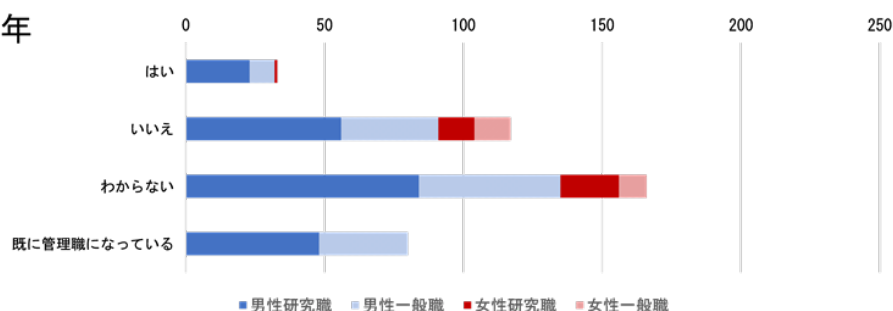
2021年：介護していることを職場の同僚や上司に話しましたか



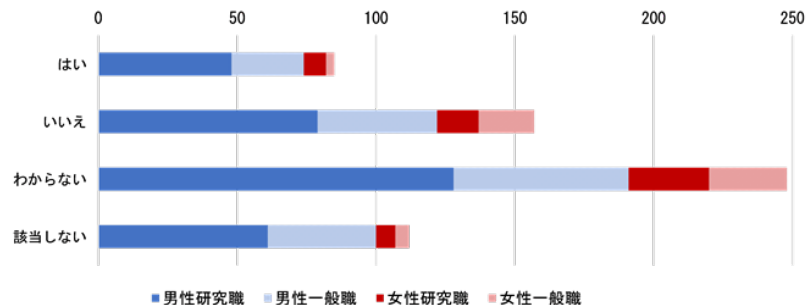
2021年のほうが「話していない」人数が明らかに多い。その理由として、2021年はコロナ禍の影響で、在宅勤務や交互出勤などが増え、同僚や上司とのコミュニケーションがなかなか取りにくかったのかもしれない。2012年の設問は「自分が介護することになったら・・・」としているが、2021年の調査は「介護経験のある方に」として聞いている。この辺りの違いも調査結果に反映されているのかもしれない。

管理職になりたいですか？

2012年



2021年



「はい」よりも「いいえ」が多い傾向に変わりはないが、2012年に比べて 2021年は「はい」の割合が増加している。



～メモ～

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
男女共同参画意識調査 2021 結果報告書

2023 年 6 月

発 行： 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

編 集： 企画部 研究企画科 ダイバーシティ推進室

連 絡 先： 305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林研究・整備機構 森林総合研究所 ダイバーシティ推進室

TEL 029-829-8360

e-mail geneq@ffpri.affrc.go.jp

URL <https://www.ffpri.affrc.go.jp/geneq/index.html>